

市役所機能再編整備基本構想（案）に対するパブリックコメント対応表

1. 意見募集概要

- ・ 募 集 期 間 : 令和3年1月4日(月)から2月2日(火)まで
- ・ 周 知 方 法 : 広報まつど(1/1号、1/15号)、松戸市公式ホームページ、松戸市公式SNS(Facebook・Twitter)、まつどニュース、近隣町会・自治会へのご案内など
- ・ 募集意見総数 : 151件(61人)
- ・ 提出方法の属性 : 全151件のうち・・・メール 61件(40.4%) ファックス 40件(26.5%) 専用応募フォーム 23件(15.2%) 持ち込み 5件(3.3%) 郵送 22件(14.6%)
- ・ 提出者の属性 : 全61人のうち・・・市内在住者 60名(98%) 市外在住者 1名(2%)

2. 主要意見

○議論を尽くすべきとのご意見

(コロナ禍で進めるべきでない、住民説明会を実施すべき、議会と議論を十分に、現地と移転の議論をもっと行うべき 等)

○市民の意見を聞くべきとのご意見

(市民の積極参加、市の情報発信・提供、市民と時間をかけて対話 等)

○その他のご意見

(ICT・働き方改革進展を踏まえた可変的な庁舎、防災・環境・エネルギーへの配慮 等)

3. 市役所機能再編整備基本構想（案）に対するパブリックコメント（意見募集） カテゴリー別意見数、及び修正状況一覧

第1章						第2章		第3章					
1. 基本構想の位置付け		2. これまでの検討経過		3. 市役所の現状と課題		4. これからの市役所機能のあり方		5. 目指す方向性		6. 地理的立地		7. 今後の進め方	
4		2		4		5		9		24		49	
修正の有無													
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
4	0	1	1	2	2	5	0	7	2	22	2	42	7

第4章		参考資料		その他									
8. 資料編		9. 参考資料		10. 十分な議論		11. 議会との議論		12. 市からの情報発信		13. コロナ対策を優先		14. その他	
5		4		11		9		5		4		16	
修正の有無													
有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無	有	無
3	2	0	4	8	3	8	1	0	5	2	2	6	10

※「修正」の定義

- ・令和3（2021）年1月の市役所機能再編整備基本構想（案）公表以降、さらなる検討により、いただいたご意見を踏まえ、加筆や修正を行ったものについては、「修正」として扱い、本表において「有」の表記としている。

※修正率 修正110件/全体151件（約7割）

4. 市役所機能再編整備基本構想（案）に対するパブリックコメント対応表

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
1	第2章 これからの社会 における市役所 機能のあり方	現状、分館などもあり市役所の機能が分散していることへの問題提起がなされていますが、その記述から新たに計画する市庁舎では、本庁の全部課を1施設に収容することを目指しているように見受けました。 おそらく、何十年か利用する施設になるとは思いますし、その中では市の状況、役所の役割にもきっと変化があることであろうから、今ちょうどいい施設でも、いつかは使いにくくなるでしょうし、人員だって増えたり減ったりするでしょう。 その中で、新築の庁舎内のフレキシビリティを考慮した計画はもとより、またいつか周辺に分館を持たなければならないときに、あの周辺に事務用途の建物があまり無いように見受けて心配になります。 市の職員をはじめとする、その施設で働く人たちにとって将来にも使いやすく効率の良い計画になることを希望します。	「職員の働き方」の方向性については、職員のライフステージ・ライフスタイルに応じた柔軟な働き方の変化が必要な旨を第4章第3節に記載しました。 また、第4章第4節において「平時」と「有事」における庁舎レイアウトの可変性確保について記載しました。	有
2	第3章第1節 目指す方向性	「市民サービスの充実や業務の効率化、安全・安心の構築に加え、環境への配慮を追求していくことが求められます。」とありますが、この資料を読む限り、省エネを目指し環境に配慮すると共に、光熱費をはじめとするコストの圧縮や、より少ない面積でより効率よく使いやすい建築計画などについても意識されているようなニュアンスを感じました。 具体的な計画は今からと存じますが、お金のかかることでもありますし、延べ床面積が現状より小さくなることへの懸念もあるでしょう。 ライフサイクルコストや面積が小さくてもどうやるから効率が上がるのかについて、十分に検討が行われ、揉まれることを望みます。	第4章第1節～第4節に、市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに関する機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討していく旨を記載しました。 新庁舎の規模に関しては、行政のデジタル化や、職員の働き方の変化等を踏まえ再算定し、計画上の基準面積を約37,000㎡としました。	有
3	その他	まず、この計画の周知が行き届いていないことを問題に思います。何度もワークショップを開催した、と主張されると思いますが、実質問題、私の周りでも知っている人が居なかったですし、SNSで発信したところ知らなかった、という意見が多数ありました。 市政に興味がない人でも納税者なので、知らせる努力は必要だと思います。自治会の掲示板、ポスティング、納税通知書へのチラシ同封、周知率が上がる程度の無作為抽出アンケートの送付など、やり方は色々あるのではないかと思います。 市役所はそもそも必須ですか？近い人は良いかも知れませんが、大半の人たちには遠くて時間と労力を使います。業務を支所、出張所、在宅勤務、バーチャルなどに移すことができれば、移転で莫大なお金を使う事もなく、介護、福祉、貧困などにお金を回せるのではないですか？ 移転にしても既存の建物にリノベーションとか、新設しか道がないのか検討し、新設にしても小さい市役所にシフトして行く事も検討していただきたいです。 それと時代に合わせ、re100という、再生可能エネルギー100%を目指す事も検討したいです。アメリカ、ネバダ州ラスベガス市では市全体で達成しており、市役所だけでも達成出来たら話題にもなると思います。 排水処理場でのメタン発酵・発電、落ち葉、枝の資源化、鶏糞発電、風力、ソーラー、小水力発電色々検討してみてください。 千葉市のモニター制度（スマホから意見、情報、現場写真アップなど）AI 解析～市政改善に役立っているようです。手間も最小に、良い意見が取り入れられる良い方法だと思うので、是非松戸市でも取り入れていただきたいです。 まずは計画は一度ストップして、より多くの市民に告知し、社会経験豊富な方々から良いアイデアを請い、時代に合わせた市役所の在り方を模索して欲しいと思います。	市民への周知に関しましては、広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの市民との接点の活用により広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。 市役所への来庁を前提とする業務の進め方に関しましては、第4章第1節～第4節において、市民ニーズの観点から、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性の向上を図っていくことが必要な旨を記載しました。 また、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに関する機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討していきます。 地球環境への配慮の点では、第3章第2節に、省エネルギーや再生可能エネルギーを導入することによるネット・ゼロ・エネルギー・ビル の検討を行う旨を記載しました。	有
4	第3章第1節 目指す方向性	4つの方向性が示されていますが、これらを考慮して取り組むことに賛成です。特に方向性3（将来変化に対応した市役所：p17）に重点を置いて頂ければと思っています。行政のオンライン化の流れは必至であり、これが進めば進むほど市役所というハード面の必要性が下がってくると思っています。そうなったときに、不要になったスペースを他の用途で市民に利用できるようにしたり、高齢者施設として利用するなど、柔軟な利用を可能にする施設にする必要があると考えます。	第3章2節方向性3を踏まえ、第4章第4節において「平時」と「有事」における庁舎レイアウトの可変性確保について記載しました。	有
5	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	市民サービス向上の観点では立地条件は多少重要ではあるものの市内循環バスを通すなどソフト面での対応が可能であること、将来変化に即応するという観点では立地条件はあまり大きな問題ではないことから、地理的立地はこれらの観点とは別に、特に防災の観点で重要になってくると思います。その観点で言うと、新拠点ゾーンで提案があった場所に市役所を移転することは賛成です。ある程度高台であり、江戸川からも距離があり非常時においても市役所機能を維持することができると考えられるからです。また、新拠点ゾーン急こう配で他の用途に使用することが難しいということも（P21）、新拠点ゾーンへ移転する理由になりうると思います。	第5章において、新拠点ゾーン（南側）及び現市役所敷地を候補地として選定し、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行いました。 災害対応は市役所の責務であることから、災害対応拠点の視点からも比較の上、総合的に勘案して新拠点ゾーンへの移転建て替えが得策と考えています。	有
6	その他	今回の基本構想においてあまりクローズアップされていませんでしたが、市役所に勤務する職員の安全の観点もあると良かったと思います。老朽化は建て替えの理由になれど移転の直接的な理由にはならないかもしれませんが、震災時にその被害を直接被るのが職員であることから、職員の安全のため新庁舎とすることは十分理由となりうると思います。また、江戸川の水害リスクについても、もちろん市役所機能の維持というのも大事ですが、職員の安全も当然問題になるわけで、職員の安全も考えているということはこの基本構想で表現していただき良かったです。松戸市役所に勤務する職員も松戸市の重要なステークホルダーだということを改めて周知してもよいのではないのでしょうか。	第7章第3節の内容のうち、(3) 災害対応拠点についての中で、「市役所の職員が死傷してしまうと行政は完全に麻痺する。その結果、実は、市民の方にとってよりマイナスな事態が発生することとなる。」との意見をいただいています。 このことからP17【令和2（2020）年度までの取り組みにおける主な意見】＜懇話会での意見＞に同意見を追記させていただきます。 さらに、市役所の責務として災害対応を行う職員の安全を確保することは大変重要な視点と考えますので、P17下から10行目を「最大の課題である地震に対する十分な耐震性能を備えた施設が必要であり、市役所機能を維持するためには、職員の安全確保も重要と考えました。」へ修正いたします。	有
7	第2章 これからの社会 における市役所 機能のあり方	役所の究極の本番は災害時にありと思います。現在のコロナ禍や直下型地震、台風などは常に襲い掛かる問題ですので平時も含めて対応する方策が必要と考えます。本構想案は市役所機能を集中化したことによるサービス機能の向上を目指していますが、人・物・サービスの集中化は逆にリスクの集中になると思われます。よって以下の提案をいたします。 1 集中化から分散化へ ①リスク分散化のため施設を4～5か所に分散建設（市内にある小中学校敷地）、②住民とのアクセスが近くなる ③自動車等の混雑解消、④三密対策 2 DX化でダウンサイジング（2025年までに完結） ①市民等とのオンライン化で来所者が減る、②処理スピードが上がり人員・スペースが縮小、 ③サービススピードが飛躍的に上がる、④IT企業の誘致が進む 3 非常時ライフラインの確保 ①施設には井戸を設置して平時から常用化、②下水は浄化槽で処理して雑用水に利用 ③電力は太陽光・風力・蓄電池・自家発電を活用して非常時必要分を平常時から利用、④通信は無線方式にし、かつ予備回線を確保 4 その他 ①食料確保のために農協・農家との非常時対策、②医療ネットワークと施設内での医療対応できる体制 安心・安全を担保しながら早い・近い・便利で自然も豊かな未来型松戸市を実現する。	第4章において、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担の整理、防災拠点としての本庁舎のあり方等について、市の考え方を記載しました。 そのほか、ご提案の内容については、今後、基本計画や基本設計の中で具体的に検討していきます。	有
8	第3章第1節 目指す方向性	市役所の移転について、基本的な考え方は市民の誰もが利用しやすいようにする、という考え方に基づくべき。また、松戸駅東口側の環境に十分な配慮をしながら行うこと。その他必要とする施設・設備を備えた多目的に使用可能な役所にすることが望ましく、より多くの意見を取り入れて計画を進めるべき。	第4章第1節～第4節において、市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに関する機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討していく旨を記載しました。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
9	新拠点ゾーン整備基本計画（最終版）【概要版】	現市役所敷地と新拠点ゾーンを比較し、後者の方が優れていると主張していることには納得できるが、新拠点ゾーンに移転すればそれだけで松戸駅からのアクセスが良くなるとは思えない。デメリットである、現在のイトーヨーカドーやペDESTリアンデッキをバリアフリーな形にする必要があることを明記すべき。	関連計画である新拠点ゾーン整備基本計画において、「新拠点ゾーン（台地部）と周辺をつなぐ主要歩行者動線として、松戸駅と新拠点ゾーンを結ぶシンボル軸を段階的に整備していきます。」と示しています。	無
10	新拠点ゾーン整備基本計画（最終版）【概要版】	都市再生緊急整備地域に関する記述が見当たらなかったが、松戸駅周辺が都市再生緊急整備地域の候補地域に選ばれていることと市役所周辺の整備には関係がないのだろうか。	関連計画である新拠点ゾーン整備基本計画において、都市再生緊急整備地域についてお示ししています。現状、新拠点ゾーンは都市再生緊急整備地域として位置付けられています。	無
11	第3章第3節 今後の進め方	第3章 今後の取り組みの方向性、第1節 目指す方向性、第2節 市役所機能の地理的立地の考え方（・市民サービスの視点）の箇所について、意見を申し上げます。 現在の市役所近隣に所在する松戸税務署及び千葉県行政諸施設機関に対して、「新拠点ゾーン整備」地域に移転の協力を願う必要があります。 現在の市役所は、昭和34年5月に現在地に移転したものであります。その後昭和39年4月 県の総合庁舎が市役所前に完成、昭和44年6月 松戸税務署が現在地に移転新築完成、昭和46年7月 千葉県東葛合同庁舎が完成。 この合同庁舎には、東葛飾地域振興事務所地域振興課・同地域環境保全課・同出納課、松戸保健所、教育庁東葛飾教育事務所、交通事故相談所東葛飾支所、松戸県税事務所、水道局松戸支所が所在しております。この合同庁舎につきましても、当時松戸市が関係行政機関に働きかけて実現したものであります。市民の行政諸手続きの利便性を第一にして、こうした一角に公的機関の施設を集結出来たのは、「市民サイドに立脚した松戸市の伝統的な姿勢」にご理解をいただいたからであると思います。 現在、上述の近隣行政機関施設から、市民が受けている行政サービスの利便性を考えますと、当然本計画の基本方針の中に入れていく必要な要素となり、一方市民から賛同を頂く最重要要件になるものと思います。上述しました行政機関と粘り強く協議をされ、「移転予定場所の提示」と「協力要請し実現していく」等の件を基本方針の中に組み込んで頂きたいと思っております。 松戸市以外の行政機関に要請をすることでありますことから、本市の移転計画案そのものには立案計上されなかったということでしょうか。	市役所機能の再編整備を検討する上で、松戸駅周辺の公共施設を集約することは様々な利点がございますが、施設の管理区分が複雑化するなどの運用面での課題もございます。千葉県所有施設については、平成30年9月に本市施設との合同庁舎化の意向の有無を確認し、意向はないとの回答を得ています。また、国所有施設については、国が検討しています。市役所機能の再編整備につきましても、様々な関係機関との調整が必要なことから、今後も各関係機関と協議していきます。	無
12	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	「市役所機能基本構想」には、「（市役所跡地と新拠点ゾーンを）比較検討した結果を総合的に判断し、市役所機能の立地場所としては、新拠点ゾーンが最適である」という驚くべき結論が明記されています。一体いつどのようにしてこの結論を出したのでしょうか？松戸市では新庁舎について「新拠点ゾーンへの移転ありき」で進められているのが問題です。昨年傍聴した「まちづくり委員会」で委員長が結びの言葉に『私がパブコメの中身を拝見して一番残念だったことは、新拠点ゾーンの整備＝市役所の移転であるという誤解が非常に多かった』という点だ。これは「MATSUDOING 2050」の中でも、市民の方々と議論してきたことだが、今ここに建っているこの庁舎、それに代わるものを新拠点ゾーンにそっくりそのまま新しく作るということを議論してきたつもりは全く無かった。ところが、それが市民の方々のご理解の問題だけでなく、市から発せられる情報の中にも、いつのまにか市役所の議論とすり替わってしまったことが、私の目から見ても、散見されることがあり、これが大変に誤解を生み、また残念な点があった』と述べられました。 今回のパブリックコメントも市役所機能再編整備基本構想案への意見となっておりますが、実際は移転ありきで、3月議会に予算が提案されるのではないかと心配されます。市議会では十分な討議がされていません。コロナを理由に質問時間も短くされ、この時期に多額の税金を伴うことを決めてはいけないと思います。老朽化や耐震化などで市役所がこのままでいいとは思いませんが、だますような形で「市民の意見を聞いた」ということにするのは詐欺に等しい。 「市役所機能基本構想」では、コロナ禍で明らかになりつつある新しい生活様式を見直し、市役所機能を分散化し市民が身近な場所で様々なサービスを得られるようにすることを課題としています。ところが、現在8ヶ所ある支所体制の再編強化について具体的な計画がなく、「新拠点ゾーンへ市役所機能を移転する」と結論づけられています。これでは「分散化」ではなく「一点集中化」であり、課題にそった「基本構想」とはなり得ませんし、市民も不便になります。 市役所の整備に関しては耐震化、移転建替え、現地建替えのそれぞれの方法を予算、日程その他具体的に案を出し、比較検討が必要です。市民のために考えないと、企業や誰かへの利益誘導が根底にあるなら、今の政権と同じ過ちを犯し、市民を不幸にします。もっと誠実に議論を尽くしてほしい。	令和4年度の「松戸市庁舎整備検討委員会」での議論をもとに、令和3年1月公表の「市役所機能再編整備基本構想（案）」に対するパブリックコメントでいただいたご意見をできる限り反映し、現在の市の方針を確定しました。 市役所機能の地理的立地については、第5章の中で、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。 また、第3章第2節の令和3年度以降における検討において、コロナ禍を契機として急速に進んでいるデジタル化の動きを踏まえ、市民サービスの向上を図るうえでの方策についても検討を行い、新庁舎の規模に関しては、行政のデジタル化や、職員の働き方の変化等を踏まえ再算定し、計画上の基準面積を約37,000㎡としました。	有
13	第3章第3節 今後の進め方	前回の「新拠点ゾーン整備基本計画」へのパブリックコメントには多くの意見が出され市民の関心の高さがうかがわれました。しかし「まちづくり委員会」の委員長は、新拠点ゾーンの整備＝市役所の移転であるという誤解が非常に多かった、市民の理解もそうだし、市の情報もいつのまにか市役所の移転議論とすり替わってしまったことが大変残念であったと述べています。 市議会での審議、討論も全て不十分です。コロナを理由に質問時間も短くされています。この大変な時期に多額の税金をとまなう重大な決定をさせてはいけないと思います。（市民のために使ってほしいです。今のこの時期、暮らしを支える資金が本棟に必要です！） 多額の税金を使うことです。データを市民にも市議会にもきちんと示し比較検討を十分にさせて下さい。他市でも、コロナ対応や、もっと市民が必要なこと（緊急なこと！）に税金を使おうと計画延期しています。（市川市、八千代市） 新庁舎の検討には、アンケートや市民説明会などを数多く行い、市民と共に計画策定をしている自治体も多いのです。ぜひよろしくご検討ください！！	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってまいりました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
14	第1章第3節 市役所の現状と課題	P10の5行目、P16の下段、P27の2行目に「南関東でマグニチュード7クラスの地震が、今後30年以内に70%の確率で起きると予測されています。」とあります。これは、2014年の地震調査研究推進本部のレポートです。既にそれから数年経過しています。この表現ですと2020年現在の確率のように誤解を与えます。現在もこの確率で正しいのでしょうか？「2014年の文部科学省・地震調査研究推進本部レポートによると、南関東で～」とレポートの時点を表記するとか、別の表現にするとか検討をお願いします。	P7の5行目を「平成26（2014）年の文部科学省・地震調査研究推進本部地震調査委員会が公表した「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価（第二版）について」（以下、「文部科学省・地震調査研究推進本部」とする。）によると」へ修正いたします。	有
15	その他	「新型コロナウイルス感染症」に対する記述が、P1の「はじめに」のほか多少触れていますが、本文にはほとんど無いように感じます。そのため、本文にももっと記述してください（コロナ禍の前に（案）が出来ていたからしょうがないと思いますが）。	第3章第2節の方向性1及び第4章第2節において、今回のコロナ禍を経験して、将来の市役所機能がどうあるべきか、再構築する必要性について記載しています。	有
16	第3章第1節 目指す方向性	東京都内の自治体では、国や東京都の依頼により、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催時の混雑緩和に向けテレワークの導入が既に進められていました。さらに新型コロナウイルス感染症拡大により加速したと聞いています。また、フリーアドレスを導入している東京都内の自治体では、フリーアドレスは固定した席がないため、課長でもカウンター近くに座ることがあり、職員間のコミュニケーションが良くなったと職員に評判が良いと聞いています。そのため、松戸市においても積極的に進めるべきだと思っております。そこで、17ページの主な意見に追記してください、「◆これからは、新型コロナウイルス感染症拡大に対応した、市民にとって使いやすい、職員にとっては働きやすい庁舎が必要。そのためには、テレワークの拡大、フリーアドレスの導入、徹底したペーパーレス化等を進めること」	第4章第5節において、在宅ワーク・サテライトワーク、フリーアドレス、文書の削減等の取り組みを行い、新庁舎の基準面積を再算定しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
17	その他	<p>ー市民として10月12日(月)の「松戸駅周辺まちづくり委員会」を傍聴したところ、初めて新拠点ゾーンの説明を受けました。2019年8月から～私がつくる！まつどのみらい～という「まちの将来像」を考える「MATSUDOING2050」という市民を募集したワークショップが行われ、委員会で何度か協議した内容のようです。内容は、松戸駅東口の広い国有地がある台地に、南(支える場=暮らしの安全・安心を支える機能)と北(試みの場=多様な暮らしを充実させる機能)と中央(オープンな場=みどりを豊かに生かす機能)に色分けされた3ゾーンを作って松戸の文化・自然・災害対策など30年後の完成をめざすまちづくりとのこと。その時に市庁舎の話は全然ありませんでしたが、災害の司令塔となる庁舎はきっとこのゾーンの中に移転されるのであろうとの印象を受けて帰りました。</p> <p>「広報まつど」では、早速この「新拠点ゾーン」について、11月13日必着という市民へのパブコメを募集し始めました。それにしても急にパブコメを募集されて「新拠点ゾーン」をどう思うかと問われても、全貌がまるでわかりませんでした。</p> <p>そこで、10月29日、市民有志で竹ヶ花の「新拠点整備課」の担当者へ疑問点を聞きに行きました。</p> <p>私たち松戸市民は、これから襲ってくるかもしれない新たな感染症の波や、気候変動による洪水や台風などの災害に備える「司令塔」としての「市庁舎」を建て替えてほしいと願っています。松戸市の優先課題は、一に市庁舎建て替え、二にクリーンセンター建設でしょう。</p> <p>ところが、質問に行った「新拠点整備課」の責任者は、新拠点ゾーンの中に「市庁舎の移転」は、入っていないというのです。</p> <p>資料の概算事業費の算出の中には、「市役所機能の再編整備 施設建設費約129億円」などが計上されているのに。</p> <p>11月27日に開催された「松戸駅周辺まちづくり委員会」で、委員長は「市民に『新拠点ゾーン』イコール『市役所移転』と思われるがそれは誤解だ。」と明言。</p> <p>そして、今回は「市役所機能再編整備基本構想」へのパブコメとのこと。</p> <p>これは、どう考えても新拠点ゾーンへの「市役所機能」の移転でしょう。</p> <p>市民にわかるように、「市役所を現地で建て替えた場合」「市役所を現在とは違った機能に再編して新拠点ゾーンに移転した場合」のように、費用と内容と建て替え期間、その間の市役所の業務などをきちんと示してもらえないで、パブコメを続けられても、市民はどうしていいかわかりません。</p> <p>一貫した説明と現地建て替え・移転の長所短所を、議会特設の「特別委員会」などで検討する方が先ではないでしょうか？</p>	<p>第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。</p>	有
18	第3章第3節 今後の進め方	<p>私は何となく市役所移転等駅周辺(松戸駅)の開発の話は聞いてはいたが、今回の突然の発表とパブリックコメント募集という事だけで4月から(来年)スタートには反対です。開発事業は大きな事業です。より大きく市民の声を反映させなくてはいけないのは当然であり、説明会も開かれたという話は聞いていません。松戸の機能の中核をつくるわけですから十分な時間と英知を集める事が当然必要です。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p> <p>今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。</p>	有
19	その他	<p>新型コロナ陽性になった時、その窓口にTELが繋がらない。自宅での熱がいったん下がり、急に具合が悪くなる。そういうニュースを聞くとな不安になるばかりです。</p> <p>外食はなし、カラオケに行ったことなし、必要な食品の買い物だけマスクをして週2回程出掛けるのみの暮らしを一年間続けています。</p> <p>この不安を軽くしてほしい。</p>	<p>今後も関係部署と連携していくとともに、コロナ過を経験したことを踏まえ事業を推進していきます。</p>	無
20	第3章第3節 今後の進め方	<p>松戸市民にとって、とても大きな問題ですので、徹底して市民の意見を聞いてください。広報まつどで詳しく説明しさらに、そのために何回も説明会を行い、あと2年間は構想を練る期間にしてください。何回もパブリックコメントを実施してください。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p>	有
21	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	<p>移転ではなく、現地建替えた場合のメリットデメリットも説明してください。</p>	<p>第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。</p>	有
22	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	<p>年明け早々、市のホームページと広報で「市役所機能再編整備基本構想(案)」についてのパブリックコメントが2月2日締め切りで求められました。11月に求められた「新拠点ゾーン整備基本計画(案)」へのパブコメの際も、出された(案)を読み込んで、担当課の新拠点整備課との話し合いからも理解できないことだらけで、パブコメを書くことが大変困難でした。なぜ困難であったか、(案)の中に市役所の全面移転を想像させる予算案が示されておりながら、担当課の職員からは「市役所の移転問題は一切求めている」との一点張りであったからです。</p> <p>「市役所機能再編整備基本構想(案)」を見ていくと、現市役所と新拠点ゾーンを比較検討した結果を総合的に判断し、市役所機能を生かす立地場所としては、「新拠点ゾーンが最適である」という驚くべき結論が明記されていることです。</p> <p>老朽化がすすむ市役所の建て替え、賑わいのある街づくりのための新拠点ゾーン計画、それぞれが重要な課題ですが、後述するように、今回の「市役所機能再編整備基本構想(案)」は手続きも内容も大きな問題があり、このまま実行されれば松戸市政に大きな禍根を残すことは明らかだと思っております。</p> <p>1. 市役所機能の全体像が示されていない。</p> <p>(1)「市役所機能再編整備基本構想(案)」では、「上位計画・関連計画」に従って計画したとされていますが、昨年秋にパブリックコメントがおこなわれたばかりの「新拠点ゾーン整備基本計画」ですら、「拠点ゾーンに移行するのは市役所機能の一部」と説明されていました。「新拠点ゾーン整備基本計画」を審議した松戸駅周辺まちづくり委員会の委員長も「庁舎について議論をしたのではない」と明確に発言しています。また、「ワークショップMATSUDOING2050」での意見も集約されていますが、庁舎移転について議論された形跡はありません。</p> <p>(2)「市役所機能再編整備基本構想(案)」では、コロナ禍で明らかになりつつある新しい生活様式、コロナ後に大きく変わる社会を見通し、市役所機能を分散化し市民が身近な場所で様々なサービスを得られるようにすることを課題としています。ところが、本庁舎と合わせて現在8ヶ所ある支所体制の再編強化について具体的な計画が示されていません。「市役所機能の分散化」を謳いながら、「分散化」の提案がなく、「新拠点ゾーンへ市役所機能を移転する」との「一点集中化」の提案だけとなっています。</p> <p>(3)本庁舎を現地で建て替えるのか、新拠点ゾーンで建てるのか、市役所機能の全体像と合わせてそれぞれのメリットとデメリットを市民に分かりやすく提案する努力が圧倒的に不足しています。</p>	<p>令和4年度の「松戸市庁舎整備検討委員会」での議論をもとに、令和3年1月公表の「市役所機能再編整備基本構想(案)」に対するパブリックコメントでいただいたご意見をできる限り反映し、現在の市の方針を確定したものです。</p> <p>市役所機能の地理的立地については、第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しました。</p> <p>また、第3章第2節の令和3年度以降における検討において、コロナ禍を契機として急速に進んでいるデジタル化の動きを踏まえ、市民サービスの向上を図るうえでの方策についても検討を行い、第4章において、これからの社会における市役所機能のあり方を整理しました。</p> <p>今後、庁舎整備を進めるにあたり、第6章第2節の具体的な検討を進めていきます。</p>	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
23	第3章第3節 今後の進め方	市民参加や市議会との連携の視点が弱い。 (1)「新拠点ゾーン整備基本計画(案)」は、松戸駅周辺まちづくり委員会での審議で市民に公開されていました。ところが、「市役所機能再編整備基本構想(案)」は、「新庁舎建設検討懇話会」(有識者で構成)がどのように関わったのか、その情報も市民には共有されていません。「市役所機能再編整備基本構想(案)」は、市役所内部で検討が進められていて、市民に情報が公開されていないばかりか、市民が参加できる委員会審議もされていません。 (2) 利用する主体である市民の参加が絶対に不可欠でありながら、市民の声がほとんど反映されていないことは大問題です。 (3) 市立病院の建替えについては、市議会に三度も特別委員会が設置されて、市民に公開され多くの傍聴者が参加されました。ところが、12月市議会に市庁舎建替え問題についての特別委員会の設置を求める2つの陳情が提出されましたが受け付けられませんでした。 (4) 市議会に庁舎建て替え問題の特別委員会を設置して、市議はもとより執行部、専門家、市民代表の参加で早急に、現地建て替えか新拠点ゾーン建て替えか、分散化か全面移転か等の基本的な認識の一致が求められます。この取り組みを直ちに進めない限り、市立病院建て替え問題での誤りを再び繰り返すことになり、その間に大災害に遭遇することが予想されます。執行部からも市議会に要請すべきだと思います。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
24	その他	財政的な裏付けを明確に 「市役所機能再編整備基本構想(案)」では、現市役所敷地内と新拠点ゾーンの「事業収支」について比較し、「ほぼ同額になるが、新拠点ゾーンの場合は現市役所跡地の売却、新拠点ゾーン建設投資が期待できる」としています。しかし、試算の根拠が明示されず、売却や投資など不確定な数値をあてにするなど、これでは判断しかなる内容となっています。 巨額な税金を投入する計画を市民に問うのであれば、その根拠を示すべきです。 以上、概略的に見ただけでも「市役所機能再編整備基本構想(案)」には大きな問題点があります。市民からのパブリックコメントを求めるだけでなく、市議会と早急な基本的論議ができることを求めます。	「事業収支」に関しましては、第5章において、比較検討を行っています。財源の関係では、新庁舎建設に想定される費用をすべて織り込んだうえで、その財源についても、事業費の調達、財政運営に与える影響について記載しています。 令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
25	その他	松戸市は市民に丁寧に説明する責任があります。 誰が案を出して、いつ議会にかけ、誰が賛成したのか明確にしてください。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
26	第3章第1節 目指す方向性	災害発生時において防災拠点となる庁舎のエネルギー供給は、途絶えないシステム導入を検討されているかと思います。昨今千葉県でも台風や水災害が多くなり、電線や電柱が倒れ、長期間の停電等のリスクが高まりつつあります。同じ千葉県の浦安市庁舎では大地震にも強いガス管を使用し、そのガスをエネルギー源として利用できるコージェネレーションシステムを導入していると以前広報誌で見たことがあります。災害時でも防災拠点として機能でき、通常時でも省エネに繋がるとのことなので、松戸市の新しい庁舎の思想にも似たものだと感じています。ぜひ参考にして頂きたいです。	第4章第4節の中で「防災拠点としての本庁舎のあり方」として、災害対応に必要なとなる機能とそれに応じたスペースについて、近年の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、検討を行い、必要となる面積については第5節に織り込みました。	有
27	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	災害対応拠点の視点にもあるとおり、新拠点ゾーンであれば広い空間が確保でき、6号線にも容易にアクセスすることができるので、立地としては良いと思います。広い空間は公園等になると思いますが、市民が日常でも立ち寄れる場所となるよう検討を進めてほしいです。	新拠点ゾーン整備基本計画と整合をとりながら、これからの市役所の「あり方」や「機能」の再構築と整備の取り組みを進めていきます。	無
28	第3章第3節 今後の進め方	市役所の移転について、市民にわかりやすく、税金の無駄使いにならない様に説明をお願いします。市民の納得が行くように、説明会は何度もやって欲しい。 専門家の話では、今、使用している所を建替えた方がお金が半分位で済むと聞いてます。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
29	その他	新型コロナ禍にあり、国政を司る国会議員と国民の間には大きな乖離が有り、地方行政の重要性は日増しに高まるばかりです。このような状況下で、令和元年台風19号や今後予想される南海トラフ地震に備え、市職員の生命を守ると共に松戸市の行政活動の機能継続は松戸市民50万人の生命を守るために必要なことであり、過剰な投資であるとは考えません。	第4章第4節において、「防災拠点としての本庁舎のあり方」に関し、業務継続計画(BCP)に基づき行政サービスを継続するための備えについて記載しています。 また、災害対応に必要なとなる機能とそれに応じたスペースについて、過去の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、算定を行っています。	有
30	第3章第3節 今後の進め方	新しい生活様式の標準化が見込まれる中で、「事務所」「市民窓口」「会議室」「倉庫」について、従来と同等のスペースは過剰と考えられます。大手広告代理店や芸能事務所が都心一等地から移転を検討するように、従来形式の「ただの箱」であれば松戸駅の駅近には必要ありません。事務所機能として「働く職員を守り事業継続する」ことに加えて、「松戸市民を守る」市役所設置を望みます。東日本大震災時に最先端だと話題になった民間の六本木ヒルズでは、施設内に発電所を持ち、その排熱を域内の冷暖房に活かすシステムで、「事業継続」と「環境」を両立し、「逃げ込める街」として評価されました。 あれから10年、行政が作る「逃げ込める市役所」として、六本木ヒルズ+αの検討を頂きたいをお願いします。新しい生活様式でこそ、普通の事務所スペースではない、「市民のための市役所」が求められると考えます。	第4章第1節～第4節において、行政のデジタル化や職員の働き方の変化を踏まえ、市役所の各機能に関して一定の方向性を定め、同章第5節において、新庁舎の計画上の基準面積を、約37,000㎡としたものです。 また、市民を守る「防災拠点としての本庁舎のあり方」として、災害対応に必要なとなる機能とそれに応じたスペースについて、近年の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、検討を行いました。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
31	第3章第3節 今後の進め方	情報提供が不足しています。分かりやすい丁寧な情報提供を求めます。 市民に知らせないで、市民の意見を十分に聞かないで行政が一方的に「良かれと思って進めている市役所」が、「気軽に立ち寄れて、様々な情報交換を可能にする場所」になりうるでしょうか。市役所建て替えの当事者は市民です。当事者には、子ども・高齢者・障害者も多様です。自分で立って歩ける人ばかりではありません。その当事者とじっくり時間をかけて話し合いを行い、そしてどのような機能を持った本庁舎を作るかを検討していくべきです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
32	第3章第3節 今後の進め方	当事者とじっくり時間をかけて話し合い行って庁舎づくりを進めることを求めます。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
33	第3章第3節 今後の進め方	建物の完成模型を示すなどして庁舎の全容を明らかにすることを求めます。 「2」の「市民の安全・安心を支える」のところには非常に重要で参考になる意見が述べられています。「災害時には、役所は防災の司令塔になる」、「それらを市民に対して情報発信していく」また「災害に強い庁舎で、有事には転用可能な会議室など、利用効率の高い庁舎」ともあります。 コロナ後の社会です。大事なことは避難者が集中しないことです。「松戸市総務部危機管理課」から出されています「災害に対する備え」の49頁「災害医療体制について」のところに「救護所の配置について」のことが書かれています。17箇所の学校だけでなくもっと多くの学校や支所を活用することが必要だと思います。16頁のワークショップ参加者の意見にもあります。「防災拠点、商業・文化施設などの居場所を分散して配置する」と。 新庁舎づくりにおいて欠かせない視点は「既存の施設を活かし、集中と分散の未来都市まつど」を市民と共に作るということではないでしょうか。現地建て替えは時間と金がかかるから、現庁舎を活用しながら新庁舎を別の場所で作った方がいいとなっています。 私の提案は、一時的に役所業務を移転してできる施設、例えば伊勢丹ビルを借りて行うのはどうでしょうか。伊勢丹ビルは耐震性もあると思われる。5年以内に大地震が起らないとも限らないので、今のうちに非難しておくという考えです。そうすれば、市民とじっくり話し合う時間も取れます。	第4章第1節～第4節において、市民を守る「防災拠点としての本庁舎のあり方」として、災害対応に必要な機能とそれに応じたスペースについて、近年の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、検討を行いました。 市役所機能の地理的立地については、第5章において、補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。	有
34	第3章第3節 今後の進め方	避難先のビルで役所業務を行い、市民との対話を進めていくことを求めます。 また、その時に支所機能を充実させ業務の「分散化」を図っていくことも大事だと思います。 「3」の「将来の変化に対して柔軟に対応できる」にある意見にも「オンライン化の流れになる」「立派な庁舎に職員が皆集まっているというのではなく、地域全体に、職員が分散して、地域の市民と毎日世間話をしながら、地域の悩み事に対応する、地域共生の考え方が、今後求められるようになっていく。まさにこれが「集中と分散のまちづくり」です。 「4」の「環境に配慮する」は当然のことです。省エネルギーや再生可能エネルギーを導入することによる「ネット・ゼロ・エネルギー・ビル」の検討や、市民が安全で利用が容易な公共スペースの提供、災害に対する強靱性を確保することでSDGsへの配慮にもつながります。ではなくて、つなげていくようにしていきますではないでしょうか。多くの市民の考えを聞くことによって発想も豊かになって行くと思います。しかし、建て替えは今ではないと思います。今は、コロナ対策に全集中する時だと思います。	第4章第1節～第4節において、市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに係る機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討していきます。さらに、市民を守る「防災拠点としての本庁舎のあり方」として、災害対応に必要な機能とそれに応じたスペースについて、近年の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、検討を行いました。	有
35	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	事業にかかる費用はその内訳を全て公にすることを求めます。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
36	その他	委託先の決定にいたるプロセスについて質問します。 新拠点ゾーンの基本計画策定業務がURリンケージになった経緯。	本件に関するご意見ではございませんので、回答を控えさせていただきます。	無
37	その他	委託先の決定にいたるプロセスについて質問します。 新庁舎整備基本計画策定支援事業が山下設計に決まった経緯。	令和元年5月公募型プロポーザルを実施し、受託者として決定しました。	無
38	その他	以下のことを明らかにして下さい。 松戸市新拠点ゾーン基本構想の事業費が301億円とあり、当初の457億円からすると156億円も安くなっています。その内容を公にして下さい。	概算事業費を算出する前提条件などが異なることから生じたものです。	無
39	その他	松戸市は首都圏の一角をなす。大規模災害の場合は、東京からの避難民の流入や、茨城県の東海第2原発の影響も考えなければならないのではないのでしょうか。 人口減少と外国人の増加という傾向も踏まえた計画が必要ではないのでしょうか。	大規模災害への対応については、今後も本市の地域防災計画に基づき、適確に対処してまいります。 人口動向も充分踏まえながら、今後の計画に取り組んでまいります。	無
40	第2章 これからの社会における市役所機能のあり方	市役所イコール市庁舎ではない、支所は単なる出先機関ではない、という考え方は理解できる。	第4章において、令和4年度の「松戸市庁舎整備検討委員会」にて、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担の整理、防災拠点としての本庁舎のあり方等について市の考え方を記載しました。 今後、基本計画や基本設計の中で具体的に検討していきます。	有
41	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	財政的根拠はわからないが、新拠点ゾーンが最適という結論に賛成。交通・物流の利便性から考えると松戸駅東口に近接している場所の方が良いと思う。 災害は待って欲しくない。オープンな議論の下、早急に再編移転を決定してほしい。	耐震性に問題のある市役所機能の再編整備は急務であると考えています。 第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。 これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
42	第2章 これからの社会における市役所機能のあり方	<p>表題の構想案は、庁舎の老朽化・分散化・狭あい化と大規模災害に対応するたんなる庁舎の移転・建替えではなく、副題にあるように、この機会に未来社会を見据えた「新しい市役所」機能の再構築を大雑把にデッサンしたものと受けとめました。しかしこの構想案は、計画の合意形成に欠かせない具体的なイメージの喚起性に欠けています。</p> <p>第1に、一括移転・建替えなのか、それとも一部移転・分散化なのか不明です。先行して策定、答申された「新拠点ゾーン整備基本計画」では、市役所機能の再編整備地は相模台の南側ゾーンが予定されています。同計画を審議した松戸駅周辺まちづくり委員会の委員長は、現在の庁舎を新拠点ゾーンにそっくりそのまま作るのではなく、機能の分散化を議論したと述べています。しかし、本構想案は市役所機能の立地場所として新拠点ゾーンが最適であるとしています。一体、一括移転・建替えなのか、一部移転・分散化なのか戸惑うばかりです。しかも、新拠点ゾーン整備基本計画は概算事業費として、構想案と同額の182億円を計上しています。このように不明瞭な計画では、新拠点ゾーン整備基本計画と本構想案の信頼性が問われます。</p> <p>第2に、庁舎の老朽化は建替えによって問題が解決されますが、分散化問題と狭あい化問題はどのようにして解決するのか不明です。というのは、新拠点ゾーンへの一括移転は、敷地面積などが狭あい化することを前提としているからです。それとも現在5箇所に分散している機能は、そのままの状態で存続する予定なのでしょうか。ここは市役所機能を新拠点ゾーンに1箇所に集中するのか、それとも分散化を前提とするのか、そのメリット、デメリットを付して明確にすべきです。</p> <p>第3に、議会と市民に対する説明が全く不十分です。構想案は現地建替え案を5つの視点から比較検討し、新拠点ゾーンへの再編整備の優位性を説明しています。現地建替えは一部の市議会議員の間でくすぶっている案と聞いているだけに、現地建替え案に対する構想案の反証はあまりにも唐突、一方的です。議会には前広に提案し、現地建替え論を含め議論を尽くし、合意形成を図るべきです。いうまでもなく市民に対しては、最低限でも説明会を行うこと、できれば広く市民の参加を呼びかけ、議員と行政も同席する円卓会議を設置してください。</p> <p>第4に、構想案の考える目標「これからの社会に求められる市役所」とはどういうものなのか、その「あり方」と「機能」の全体像の説明がありません。コンパクトシティやスマートシティ、行政サービスのオンライン化とマイナンバーカードの普及など国の政策の安直な受け売りではなく、市民の考えを置き去りにしないよう、あくまでも市民の、市民による、市民のための構想となることを願うものです。</p> <p>第5に、以上は主として構想案全般に関する意見ですが、パブコメ公表は、課題・条項別に細分化した形式ではなく、寄せられた意見の全文を掲載することを要望します。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p> <p>今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。</p>	有
43	その他	<p>市役所の本館と新館は耐震性不足から何らかの対応は必要ですが、今はコロナ対策が最優先課題です。議会棟や別館、市民会館、図書館本館などと合わせ、市民からしっかりと意見を聞いた上で、時間をかけて結論を出すべきではないでしょうか。相模台公園に移ると、今の公園はどうなるのか、今の市役所跡はどうするのか。わからないことも多いです。今の市役所は高低差があり、行くのは大変ですが、相模台はもっと高く大変です。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p> <p>今後も、市民のご意見をいただきながら、計画等の検討を進めていきます。</p>	有
44	第3章第3節 今後の進め方	<p>松戸市は市民のことを考えていないのでは。あまりに唐突に上記構想を打ち上げ、市民に説明もないのにパブリックコメントを求める。広報に載せたから説明したではすまされない。市税もはばない額が投入される。市役所の耐震に問題あるのは本館。現地建替えも考えたのか。コロナ禍の今、できるだけ、少ない費用で実をとることを考えるべき。市民にもっと知らしめる時間と対話を求める。新拠点ゾーンは必要なのか甚だ疑問。そこも説明せよ。</p> <p>前に、30年後の松戸を考えるワークショップに参加したが、初めからこの新拠点ゾーンの実績づくりをしたんだと、利用されたと腹が立つ。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p>	有
45	その他	<p>突然の計画発表にびっくりしました。コロナ騒ぎのなか、急いで進めないで下さい。私達の納めた税金は、私達の納得いくように使ってください。松戸市に住む子供達にこれ以上の借金を残さないで下さい。当面市庁舎は耐震性に問題のある本館と新館だけ手当てして下さい。どこの家庭でも幼い子供たちにまで借金を払わせる親はいないでしょう。市役所機能再編整備基本構想（案）に反対です。今一番の優先順位は、市民の命を守ること、PCR検査と医療崩壊を防ぐことだと思います。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p>	有
46	第3章第3節 今後の進め方	<p>市民の積極的参加と情報公開のもと、耐震対策もあるので早期の行動開始が望まれます。これからの社会では市民の自治力アップが、心ゆたかで平安な生活や民主主義の深化のために欠かせません。市長はじめ職員の皆さんには、市民の声を真摯に聞く、という原点からこの課題にも取り組んでいただきたいと思っています。こうした計画は大手のコンサルタント業者に丸投げされると、どの街も似たり寄ったりになりがちです。市民の独創的アイデア、持ち味を引き出すことで街の魅力を向上しようではありませんか。</p>	<p>令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。</p> <p>また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。</p> <p>さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。</p> <p>今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。</p>	有
47	その他	<p>このパブコメへの市広報（1月1日号）などの「お知らせ」は不十分すぎます。先の11月の「新拠点ゾーン整備計画素案」（以下「新拠点」）関連のパブコメに際してもこの点の改善をお願いしました。広報で何回も、またよりスペースをとって市民に知らせると関心も高まります。</p>	<p>いただいたご意見を参考に、広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。</p>	無
48	その他	<p>市で用意された「再編」文書は50ページ以上もあります。市へ取りに出向いても提供されずコピーをとらねばなりません（あるいはダウンロードで自ら印刷）。そんなに費用のかかるものではありませんから、多くの市民の声を聴きたいのであれば、ある程度の部数が配布用に用意されるべきでしょう。あるいはせめて数ページのダイジェスト版は必要でしょう。</p>	<p>いただいたご意見は今後の参考にさせていただき、市民の皆様への情報媒体のあり方を検討していきます。</p>	無
49	第1章第1節 市役所機能再編整備基本構想の位置付け	<p>先の「新拠点」パブコメと、このいわば市役所移転を含めた「再編」パブコメの関連がはっきりしません。「新拠点」が「30年計画」であればいわば長期計画、「再編」はいわば短期計画です。ただ、別物のようであって、文書では重なる指摘もあります。記して位置付けを明確にすべきでしょう。</p>	<p>第1章第1節において、市役所機能再編整備基本構想の位置づけを整理しました。</p>	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
50	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	近年の巨大地震・災害頻発の中、新庁舎の建設は素案の2026年度完成では遅すぎます。早期完成の改善案が必要で、早急に市議会内の特別委員会設置が必要です。また、「現地建替えと移転」両案の長短所をもっと詳しく公開し、市民の声を聞く機会を早急に準備してください。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
51	その他	コロナ禍などで市財政が厳しく予算執行の優先順位が重要で現在、緊急課題は庁舎やクリーンセンターの建て替えです。新松戸駅東口の市の整理事業に多額の支出は無駄であり予算執行の見直しをすべきではないでしょうか。	市の将来の発展に資する事業については、適時適切に実施すべきと考えます。	無
52	第1章第2節 これまでの検討経過	第1章について、99年にマスター案が出て、11年の東日本大震災までなぜ構想案が進まなかったのですか。p.10に「拠点南は市役所機能」云々とありますが、これは市役所移転が前提になっているということでしょうか。	第3章第1節において、これまでの検討経過を記載しました。 第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。 これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えています。	有
53	第2章 これからの社会における市役所機能のあり方	第2章について、コロナを一過性とせず新しい社会づくりへの契機とみる指摘（p.13など）は重要と思います。ただ、支所機能の拡充やICT化は本庁の巨大化・集中化と逆行します。今後は支所の増加や福祉、災害対策などの直接的対人的な現業部門の拡充こそ急務ではないでしょうか。	第4章において、令和4年度の「松戸市庁舎整備検討委員会」からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。この中で、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担の整理、防災拠点としての本庁舎のあり方等について、記載しました。 今後、基本計画や基本設計の中で具体的に検討していきます。	有
54	第3章第1節 目指す方向性	第3章について、「方向性4 環境配慮」も重要な指摘です。ただ、気候危機などを考えるともう少し掘り下げた検討が望まれます。先の総合医療センターの建設に際しては、この点から省エネ型設計などの具体的提案をしました。しかし、「費用」を理由に殆ど採用されませんでした。今回はぜひ市民の意見を吸い上げていただきたいものです。自然採光度合を高く、ソーラー発電・温熱設備で電気代などランニングコストでの大幅の削減も図れます。	環境配慮やランニングコストの削減は、大変重要な視点と考えており、第3章第2節の方向性4において、具体例として記載をさせていただいています。ご意見については、今後の計画等における検討の参考とさせていただきます。	有
55	第3章第3節 今後の進め方	P23の「概算事業費比較」はラフでわかりにくいので説明会が必要です。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
56	第3章第3節 今後の進め方	P24の駐車場整備代40億円は高すぎます。また、新庁舎完成後30年間で駐車場の利用収入が31億円と試算されていますが、時代の流れに逆らっています。自動車の利用を減らして省エネ、資源節約、地球高温化防止こそ緊急課題です。大手コンサルなどによるこれまでのコピー的な案ではなく、グローバルな視点とローカルな現場から時代の先を読むことがとても重要です。根本的な見直しが必要でしょう。それこそが、p.13にある「コロナを一過性とせず新しい社会づくり」につながります。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、事業収支等の視点も含め6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
57	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	P25の「立地比較」は新拠点への市役所（本庁）移動を前提にしていると読み取れますが、その線で話が進められているということでしょうか。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
58	第4章第5節 MATSUDOING2050の概要	第4章について、P38から、部会やMATSUDOING2050の紹介があります。ただ、ここでは市役所移転については議題になっていないようです。「新拠点」とのテーマが混ざっているようですがどうでしょうか。	第7章第5節に記載していますが、MATSUDOING2050では、松戸駅周辺地域の30年後の将来を議論していきまします。これにより松戸駅周辺地域において、特に新拠点ゾーンにおいてこれからの公共施設に求められる機能や役割をとらえることができました。この議論も参考としています。	無
59	第3章第3節 今後の進め方	1月15日の広報まつどにて市役所機能再編整備基本構想（案）にパブリックコメントを求めていることを知りました。松戸市役所は、松戸市民にとって安心・安全に暮らすための要です。現在の市役所は、老朽化し、耐震対策や大規模災害に対応できることが求められている事は理解できますがだからこそ多くの市民の論議必要だと思います。広報まつどだけで多くの市民が理解できるのでしょうか、機能再編整備基本構想案は、市役所移転建替えありきの中で進められてはいませんか。新たな商業・文化施設建設事業一貫の中での新庁舎移転には理解できません。建設にあたっていろいろな角度で検討され議会の中でも論議が尽くされているのでしょうか。現地建替えでも費用も少なく市役所の機能を十分果せる市庁舎を建設できるという声も聞きます。多額の市民の税が投入されるわけですから、積極的に市民に情報を提供し、市民の声を広く聞いて欲しいと思います。コロナ禍の中、早急に市民が必要だとすることから取り組み、開発を強行するという姿勢を見直してください。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
60	その他	たまたま耳にしたのですが、市民に広くその計画は知られておりません。	松戸市公式ホームページにて、これまでの検討経過について公表しています。 今後も、広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知していきます。	無
61	その他	今、コロナの問題でしなければならないことは沢山あると思います。	耐震性に問題のある市役所機能の再編整備は急務であると考えています。 来庁される市民の皆様や、そこで働く職員等の生命を守るだけでなく、市民の生命と財産を守るための拠点（災害対応拠点）としての機能を十分に果たすために、市役所機能の再編整備は市として最重要かつ緊急の課題となっています。	無
62	第4章第1節 市役所の耐震改修などの検討の経過と結果	今の庁舎は建替えをしなければならないほころびとかがあるのでしょうか。	第2章第3節において、市役所施設及び機能の課題を記載しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
63	第3章第3節 今後の進め方	もっと広く市民の意見をきくべきです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を踏まえ市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
64	第3章第3節 今後の進め方	もっと市民と建替えの意見の真意を話し合うべきです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を踏まえ市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
65	第3章第3節 今後の進め方	基本構想（案）はどれだけの市民が参加して作成したものなのか。ホームページで検討しパブリックコメントとは一方的だ。新拠点ゾーンに新庁舎も含めて検討とは早急すぎないか。 もっと広く市民の声を聞いて時間をとって練り上げていくべきだ。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を踏まえ市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
66	第3章第3節 今後の進め方	耐震性は一番大事な部分です。ただ、あらゆる面から考えて頂きたいのが市民の思いです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 また、第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
67	第3章第3節 今後の進め方	このテーマについての説明会を小学校区単位で、休日でも在住、在勤の人々が参加しやすい時間帯、会場で説明会を行ってください。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を踏まえ市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	無
68	その他	市議会で会派の人数に関係なく、全部の会派の代表で構成される特別委員会で審議を行ってください。	令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。	有
69	その他	本会議では1回だけでなく必要とされる回数と時間を充分にかけて審議を行ってください。	令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。	有
70	その他	市役所（市庁舎）を現地建替えではなく、移転するかどうかを決定する場合の賛否を取る場合は、過半数の賛成ではなく3分の2以上の賛成をもって決定するようにしてください。	今後も、関係法令の定めにも必要な手続きを行うとともに、必要となる予算の提案・審議を通じて、事業を進めていきます。	無

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
71	その他	保育所について提案です。 松戸市は子育てしやすい街と言うことですが、小さなお子さんを育てながら市役所に勤務される職員の方も多くいらっしゃると思います。松戸駅から徒歩圏内で便利な庁舎内にも保育所があると便利なのでは？と思います。 企業内保育所を設置されている企業も多い中、市役所に勤務する職員、松戸駅を利用し働いている保護者の方々にも活用して頂けるのではないかと思います。 また、現在松戸市の公立保育所では無資格の方も勤務されているようですが、資格を持った方に勤務して頂けると安心です。	いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。	無
72	新拠点ゾーン整備基本計画（最終版）【概要版】	「新拠点ゾーン」とされているエリアは、松戸市内でも有数の自然が残されているうちの貴重なエリアです。このエリアの自然環境を生かした市民の憩える場としてほしいのです。大型の建築物やマンション等を配置するのだけはやめて頂きたい。	新拠点ゾーン整備基本計画において、松戸駅周辺におけるまちづくりの方向性を示しています。	無
73	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	市役所機能については、どのような世代でも、どのような立場におかれている市民でもアクセスし易い立地が大切です。近未来でリモート、オンライン、IT化が進んだとしても、そうした環境が行き渡るには時間と経済的手当が必要だからです。現地建替えも含めた検討が必要です。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
74	第3章第3節 今後の進め方	標記のような構想は、数十年に一度の大きなものです。従って広く市民の意見を聴取していくことが不可欠です。市内くまなく地域ヒアリングの場をコロナの中でも工夫して設定し町会、自治会などへの紹介、意見聴取もして頂きたい。そのためには、もっと時間も必要です。一部の方々のアイデアだけで進めてはいけません。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってまいりました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取を行います。	有
75	第3章第3節 今後の進め方	民間活力の導入をあげる場合も、市民にとって、サービスの低下を招いたり、効率優先になつたりしないようにしてほしいです。公共施設は市が責任をもって管理運営すべきではないでしょうか。	いただいたご意見は、今後の検討の参考とさせていただきます。	無
76	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	（事業スケジュールの視点）について 現地建替えの優位性について ①現在の本館前21台、新館前50台収容の駐車場を、新館前に設置する収容能力130台の自走式立体駐車場にスムーズに移転させること。⇒工期5カ月間。工費5億円 ②本館前は3,000㎡の面積の公園で、現在21台の駐車場です。新館前は2,000㎡の面積があり、50台駐車可能です。まず本館前公園部分の樹木を順次仮移設をして、傾斜を均し簡易舗装をします。完成した部分に新館前駐車場部分を移動して、100台分収容の駐車場とします。1台あたり30㎡の駐車スペースがありますので、十分、100台駐車可能です。工期は1カ月弱、工費0.5億円程度です。 ③次に新館前に130台、実際は145台収容の大きさ22.1m×42.5m×5階建ての自走式立体駐車場を建設。ネットの雄健工業株式会社のカタログによれば、工期125日、工事費4.2億円です。ちなみに「キテミテ松戸駐車場」は建築面積1,500㎡、7階建てで、378台収容です。駐車場屋上階の5階と、新館5階部分を鉄骨で接合すれば、耐震強度の不足している新館の耐震性（底面幅10m⇒32m）が向上し、直下型大地震にも耐えられます。すなわち駐車場着工後5カ月で、新館・本館の耐震安定性が確保出来るのです。議会棟などへの車両の進入は、立体駐車場1階部分に走行路を設けます。新拠点計画では6年後、現地建て替えでは5カ月後。松戸市役所職員・市民の命を守るのに、どちらが良いのか？ ④空地となった本館前面3,000㎡の敷地と、前面道路100m×5m上に建設用仮スペース、合計3,500㎡の建設用地に、建築面積1,500㎡、延床面積3万㎡、20階建ての新庁舎建設について。 ⇒工期：設計1年間、建設2年間合計3年間。工費：129億円 ⑤既存の敷地面積3,000㎡、延床面積3万㎡クラスの事例を提示すると、大阪市の「サンケンビル」。敷地面積2,456㎡、建築面積1,562㎡、延床面積30,200㎡、21階建てのビルです。ついで「大阪御堂筋淡路ビル」。敷地面積2,770㎡、建築面積2,260㎡、延床面積42,360㎡、21階建てのビルです。このように、東京・大阪等の過密都市には数十の事例があります。新庁舎建設の期間に本館・新館等の業務の妨げになることはありません。設計1年間、建設2年間で可能です。さらに新庁舎完成後、本館・新館は取壊し、跡地を市民会館や図書館用地等に使用し、松戸市の施設を統合することが出来ます。 ⑥建坪3万㎡の新庁舎でなく、耐震検討で健全な議会棟・別館を差引いた(30,000-7,630) = 22,370㎡の新庁舎建設。建築面積15,000㎡とすると15階建て。延床面積3万㎡以下の実績では、市川市のガレリアアサラー敷地面積2,936㎡、建築面積1,560㎡、延床面積27,941㎡、34階建てのビルがあります。 ⇒建設工事費126億円。⇒工期：設計1年間、建設1.5年間の合計2.5年間。建設工費96億円 ⑦地下駐車場26億円⇒自走式立体駐車場5億円 ⑧現庁舎取壊し9億円⇒9億円×(23,204-7,630) / 23,204 = 6億円 ⑨合計(126+26+9) = 161億円⇒(96+5+6) = 107億円。差額54億円 ⑩現地建て替えなら相模台での購入予定(8,799㎡、27億円)が不要に。 ⇒現地建て替えで54+27=81億円、相模台移転建て替えより安くできる ご承知のように、平成7年、耐震補強4.3億円と日建設計が検討した市民病院は、移転建て替え建設事業費270億円の市立総合医療センターとなりました。これは平成22年度市民病院赤字15.8億円が令和元年度総合医療センター45.4億円の3倍増の莫大な赤字を発生させています。削減効果を無視した新拠点での新庁舎建て替えは、市民病院移転建て替えの2の舞を望んでいるとは思われません。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
77	第1章第3節 市役所の現状と課題	災害対応機能としての立地（位置・スペース）の課題 12月議会で議員が小根本交差点の浸水深さは、20cmなのでトラックは、車高が高いため走行は問題ない。心配なら20cm舗装をオーバーレイすればよいと発言したが、執行部は明快な答弁をしなかった。 1番目に、JAFは洪水時の浸水したアンダーパス通過の走行実験をしております。浸水深さ30cmと60cmで、走行距離は30mです。試験車両はトヨタマーク2とSUV日産エクストレイルです。SUVは60cmで問題なし。マーク2は30cmのみOKでした。トラックは車高が高いため問題なしと言えます。 2番目に、市役所から新京成2号踏切を通り、衛生会館に通ずる道は、狭いのでトラックの走行は困難ですが、乗用車は通行可能です。最も標高の低い所は、市役所出口の8.8mで、浸水の恐れはありません。 以上から、現市役所から国道6号線への道路は浸水被害の恐れがなく、人や物資の移動に問題がない。	第2章第3節において、平成27年度の防水法改正を受け、平成29年7月に、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所が公表した、想定最大規模の降雨に伴う「利根川水系江戸川洪水浸水想定区域」に基づき大規模な水害が発生した場合、市役所周辺の浸水が想定されることとなりました。この場合には、現庁舎周辺の道路の浸水により、災害時の緊急輸送道路である国道6号などを通じた受援・応援には、浸水想定エリアの通行が必要となります。こうした事態が予想される場合においては、市の防災計画に基づき予め災害対策本部の機能を消防局などに移し災害対応を行わざるを得ない状況にあるのが現状である旨を記載しています。	無
78	第4章第1節 市役所の耐震改修などの検討の経過と結果	施設・基幹設備の老朽化 問題は設問に合理性、エビデンスがないこと ①法定耐用年数と実寿命は、直接は関係ない。中性化等の調査もせずに寿命と言えるのか？平成29年（1954年）完成の福島県庁本庁舎は、平成30年（2018年）、寿命30年延伸目標で41億円をかけ現地耐震補強工事を実施。64+30=94年寿命である。 ②設備等の維持管理費の発生は当たり前のこと。設備等は毎年維持管理修理をすれば、超長期の使用も可能。福島県庁は94年の耐用を目指している。	第2章第3節において、市役所施設及び機能の課題を整理しています。	有
79	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	現在の敷地面積15,158㎡を売り払い、約8,799㎡の松戸駅から遠隔の土地に庁舎を立てるのか？ ①現地建て替えで残存建物面積：15,158-4,083=11,075㎡の有効利用の可能性 (新庁舎1,500㎡。議会棟981㎡。別館663㎡。自走式立体駐車場939㎡⇒4,083㎡) 現地建て替えなら、残存面積11,075㎡もあり、他の市施設、図書館・新会館等松戸市のあらゆる施設を収容可能な広さがある。さらに賑わい施設等の建設も可能である。 ②残存面積11,075㎡の土地に災害避難所設置も可能。現避難所の相模台小学校や1中に比較して、東口地域在住市民の避難が容易となる。 ③現庁舎は税務署・県東葛事務所に至近。相模台南端新拠点ゾーン庁舎候補地では、これらの施設に行くには非常に不便。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
80	第1章第1節 市役所機能再編 整備基本構想の 位置付け	市庁舎の建て替えは現市庁舎が老朽化し耐震性等に問題があるので必要と考える。しかし、「市役所機能再編整備基本構想(案)」を読むと「新拠点ゾーン」に市庁舎を建設することが既に決定しているように読み取れる。	第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。	有
81	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	現市庁舎が移転となった場合、跡地を売却せず民間企業に貸し出すことで地代あるいは家賃収入等を創出し、松戸市の財政赤字解消のために有効活用すべきと考える。当然その中で不正が行われないような監視システムが必要である。	第5章第2節において、市役所建て替えに伴う経済効果や将来の街づくりの整備費用に与える影響について考慮すると、新拠点ゾーン移転建て替えの場合には、現庁舎跡地を民間で活用すれば、市民税や固定資産税・都市計画税などの収収効果等が期待できると記載しています。なお、現庁舎が移転する場合においては、まちづくりや地域のニーズなどの観点から、その利活用について別途検討が必要であると考えています。	有
82	新拠点ゾーン整 備基本計画(最 終版)【概要 版】	「新拠点ゾーン」に新庁舎を造り防災拠点にした場合、国道6号線沿い東部からのアクセスは良いが、常磐線沿線西部からのアクセスは非常に悪い。特に震災があった場合、「新拠点ゾーン」への避難のアクセスは第一中学校に通じる坂道、ヨーカ堂横の階段、裁判所へ通じる坂道の3ルートしかなく、何れのルートも登りとなる。これが避難時のボトルネックになると考える。また、ハザードマップポータルサイト「重ねるハザードマップ」によると土砂災害発生時は「新拠点ゾーン」のアクセスルートである「第一中学校に通じる坂道」と「裁判所へ通じる坂道」に大きな被害が出る事が示されているので、十分な検討が必要である。	S字道路(旧松戸法務総合庁舎へ向かう坂道)の歩道拡幅、道路勾配の緩和、自転車通行空間の整備、車両の相互通行化とともにエレベーター・エスカレーターの設置により、快適なアクセスと災害時の円滑な避難路を確保します。	無
83	第3章第3節 今後の進め方	「新拠点ゾーン」に市役所が移転した場合、アクセスルートは松戸駅からヨーカ堂経由、あるいはヨーカ堂横の階段経由に限定されるので、それは面として広がりづらい動線になるのではないかと。「新拠点ゾーン」からの動線を考えた場合、松戸駅周辺、特に松戸駅東口の南から北に広がる商店に負の影響を及ぼす可能性はないか。	第5章において、まちづくりの視点の中で「賑わい向上及び松戸駅周辺市街地活性化の観点」「松戸駅周辺全体の回遊性向上の観点」でも比較評価を行い、新拠点ゾーン移転建て替えの場合、松戸駅周辺全体の回遊性向上による賑わいの創出等が期待できると考えています。	有
84	その他	一か所に公共施設を集中するより面として、松戸駅を中心(半径500メートル)に施設を分散して動線を作ると賑わいが創出されるのではないかと。	第5章において、まちづくりの視点の中で「賑わい向上及び松戸駅周辺市街地活性化の観点」「松戸駅周辺全体の回遊性向上の観点」でも比較評価を行い、新拠点ゾーン移転建て替えの場合、松戸駅周辺全体の回遊性向上による賑わいの創出等が期待できると考えています。	有
85	その他	国土省関東地方整備局江戸川河川事務所が2017年7月に公表した「想定最大規模の降雨に伴う利根川水系江戸川洪水浸水想定区域」に基づき、市役所周辺が浸水する大規模水害の発生する頻度は何年に1度の割合が想定されるか。現市庁舎での当面の対応策として考えられること： ①国道6号線と新京成鉄橋の交差する地点から新京成線に沿って衛生会館につながる道路を利用して市役所に通じるよう改修する。 ②松戸市松戸にある西部防災センターと災害時の連携を計画確認しておき、災害時には市の災害対策本部を設置できるように準備する。 ③どのような規模の災害にも即応できるよう対策本部機能を市内に在る市庁舎施設に分散させておく。	想定最大規模の降雨規模については、1000年に1回程度と想定されています。大規模水害は自然現象のため発生を予測することは非常に困難ですが、市役所は業務の継続性が十分に確保されることが求められるため、災害対応拠点として、その立地条件の中で最大限努めていきます。また現市庁舎での当面の対応策に関するご意見につきましては、関係部署と情報を共有し、参考にさせていただきます。	無
86	その他	大規模水害が出た場合、国道6号線は都との県境である新葛飾橋も水没してしまうことがハザードマップポータルサイト「重ねるハザードマップ」に示されていることから、策定された対応策を市民に公表しておくべきである。	いただいたご意見につきましては、関係部署と情報を共有し、今後の参考にさせていただきます。	無
87	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	「災害対応機能としての立地」を考えた場合、災害の種類、頻度を考慮すると現市庁舎のある土地は「新拠点ゾーン」と比較して不向きな立地とは思えない。	第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。なお比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
88	第3章第1節 目指す方向性	現市庁舎は本庁舎敷地の4つの建物(本館、新館、議会棟、別館)と敷地外の5つの分庁舎で構成され、老朽化、分散化、狭あい化、耐震性能の劣化、バリアフリーへの対応不足など問題点が多い。また、松戸駅周辺の文化施設も建設当時のままに据え置かれ、市民の要求に応えられない面が大きくなっている。この様な現状を鑑みるに、日常の市民生活を総合的にサポートする機能と共に、気候変動により、各地で頻発する災害への備えを松戸市でも準備すべきだと思う。	第4章第1節～第4節において、令和4年度の取り組みである「松戸市庁舎整備検討委員会」の検討結果を踏まえた市の考え方を記載しました。災害への備えに関しては、第4章第4節において、「防災拠点としての本庁舎のあり方」として、災害対応に必要な機能とそれに応じたスペースについて、近年の災害対応事例や、先行自治体事例等を踏まえ、検討を行いました。	有
89	第3章第3節 今後の進め方	現市庁舎の敷地は起伏があり、現地建替えには無理があるのではないかと。折しも松戸駅周辺の新拠点ゾーン整備計画が組上に載せられている今、東口高台の新拠点ゾーンへの市庁舎移転建て替えは最も望ましい選択だと思う。	第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。	有
90	第3章第3節 今後の進め方	本構想(案)のP22には、新拠点ゾーンへの移転建て替えと現敷地での建替えの比較が掲載されている。 ①新拠点ゾーン：地盤良、高台、十分なスペース、緊急輸送道路として6号からのアクセス良 ②現敷地：スペース不足、緊急輸送道路について難あり それぞれの工事完了予定①R.8(2026)年、②R.14(2032)年 ただでさえ近隣市に遅れをとっている松戸市のまちづくりが更に遅れることでまちが沈んでしまう選択をしないで欲しい。松戸市に最後に残った超一等地を文化都市をめざす松戸市の為に最大限に有効活用して下さい。	第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。なお比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
91	第3章第3節 今後の進め方	「構想」部分 以下の二つを指摘したい。 (1)アンバランスである。第3章第3節で、今後の進め方として、基本構想 n基本計画・基本設計 n実施設計 n建設工事が示されているが、第1節の目指す方向性(4つの指標)の中では、考え方だけが示されているにも関わらず、第2節でいきなり延床面積30,000平米が登場する。根拠がどこにもない。もし、どうしても延床面積を示したければ、構想段階では数値は幅(例として3~3.5万平米)でその根拠と共に示すべきである。また、本構想と一体の新拠点ゾーン計画では計画段階であるにも関わらず、概算の費用さえ明示されていない。しかし、本構想では構想段階で費用概算が示されており、なんともチグハグであり、コメントさえ困難なほどである。 (2)構想と呼ぶにはあと一歩踏み出す必要がある。4つの方向性が示されているが、本構想に示されているものはいずれも一般的なもののばかりである。誰が考えても同じようなことが列記されているに過ぎない。構想段階では少なくともコンセプト(松戸市役所ならではの差別化)が必須である。そこまで進めない場合でも、イメージ出来るものが欲しいが、最近の市役所建設の一般的傾向が列記されているに過ぎない。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を示しました。この中で、行政のデジタル化や職員の働き方の変化を踏まえ、市役所の各機能に関し、一定の方向性を定め、新庁舎の計画上の基準面積を、約37,000㎡としました。	有
92	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	市役所機能の地理的立地の考え方(第2節) 5つの視点から比較されているが非科学的な点が多い。いくつかを列記する。 (1)災害対応拠点としての視点 国道6号線が被害を受けないことを前提にしている。総合的な比較がなされているとは言い難い。地震に対する耐性も新拠点が優位なような印象で説明されているが、現在地でも地震に対する調査は確証済みのはずである。 (2)まちづくりの視点 新拠点ゾーン基本計画(案)では市役所建設だけしか具体的な計画は明示されておらず、文化施設、商業施設等は予算の関係や民間資本の参入見送りなどにより計画倒れの可能性も充分ありうる。新拠点整備の財源を含めた市としての全体計画の強い意志が示されない中では、新拠点の優位性は根拠としては弱い。 (3)市民サービスの視点 機能移転までのサービス比較に限られており、客観性がない。完成後のサービスについての比較を中心にすべきである。 (4)事業収支・効果の視点 新拠点ゾーンの全体計画を策定し、投入総費用を明示したのちに事業効果を予測するのであれば、説得力があるが、計画途中の現時点予測では市民からの信頼は得られない。それどころか逆に構想全体の信頼性を損なう結果になっている。 (最後に) 松戸市の明確な意思を伝えず、現時点で具体化が難しい費用を明示し、構想がチグハグな印象を拭い去ることができない。市民には新拠点に移転したいがためだけの構想として映る。もう一回やり直して欲しいというのが正直な気持ちである。	第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。なお比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
93	第3章第3節 今後の進め方	税金の無駄遣いはやめて下さい。 今、公共施設を再編計画としていろいろな部署をスリムにしている時に、「新拠点ゾーン整備基本計画(案)」を新聞報道で知り驚きました。市民には、「いつ・どこで知らせたのですか?」「市民の代表である市議会では、議論されたのでしょうか?」いつ、どこで、誰が決めたのでしょうか?疑問だらけです。現地建替え、新拠点ゾーンでの建替えにおける議論、報告書があれば市民に公開すべきではないでしょうか?いきなりのパブコメは、問題があると思います。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を踏まえ市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 第5章において、候補地等別比較(定性的・定量的視点)として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。なお比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
94	その他	市役所とは、「市民の役に立つ所」今、どちらを向いて仕事をしていますか? 税金を使うなら未来をたくすこどもたちへ、今まで松戸市の為に頑張ってきた高齢者の方へ、そして、働き盛りの人々に、税金を使うことを望みます。 学校はボロボロ、公立保育所は一般財源化になってからは、施設整備は不十分です。まずはここを災害対策の拠点とする事を考え、もっとお金をかけるべきです。 高齢化に伴い、コミュニティバスの声は、地域に住んでいる人にとっては大きな問題です。「市民の小さい声に耳を傾けていますか?」お金がないと言いつつ税金の使い方を間違えていませんか?もう一度、松戸に「すぐやる課」が出来た時の市民目線に戻ってほしい。これからの世代に、借金を負わせることのないように!!	いただいたご意見につきましては、どれも重要な課題であると考えていますが、一方で、「まちが再生し賑わいのあるまちづくり」についても、松戸市総合戦略の4つの基本目標の一つであり、重点的に取り組むべきと考えています。また、全体の公共施設のあり方も重要な課題であると考えているため、関係部署と情報を共有し、今後の参考にさせていただきます。	無
95	その他	大型開発では、松戸の魅力は出せないと思いますが?住んで良かった街とはどのように想像されているのでしょうか?目先のキャッチフレーズでは、もう限界では。 市民が住んで良かった街にする為には、市民の小さな声に耳を傾ける事ではないでしょうか?何故、コロナ禍で市民が苦しんでいる時に提案するのでしょうか。今、やるべき事は、市民が安心して暮らせるようにコロナ対策、防災対策に力を入れる時ではないでしょうか?	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
96	第3章第3節 今後の進め方	市役所が、10年前の3.11の東日本大震災の時に7、8、9階で仕事をしていた職員に聞くと、「死ぬかと思った。倒れるならどの位置にいれば助かるかなど」頭によぎったと聞いています。耐震化の問題はわかりますが、新拠点ゾーンと一緒に考えるのは無理があると思います。 他市の状況を聞き、市民が納得するようにしていかないといけないと思います。プロジェクトチームがあるならば、丁寧に説明すべきだと思います。又、市民にアンケートを取る等、の手段でより多くの市民に関心を持ってもらう事はされたのでしょうか?疑問だらけです。又、市民の代表である市議会の中にも提案されず、議会での議論も尽くされていない。市民の代表である議員で、(耐震化・移転建替え・現地建替え)データを示し、本気で検討すべき問題だと思いがすが・・・!!	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
97	その他	箱ものづくりに税金はやめて下さい。人々の暮らしに税金を使って下さい。税金の使い方が間違っています。市民が納得するまで、今の計画は凍結すべきです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会(現・庁舎整備に関する特別委員会)」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
98	第3章第3節 今後の進め方	何より、市民の声を聴いて下さい。 大切な税金を使うのであれば、地域説明会を開くべきではありませんか！！	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	無
99	第3章第3節 今後の進め方	このような大きな問題は、もっと市民に時間を掛けて英知を集める努力をするべきです。市民をお座成りにすることは、松戸の衰退につながります。最低1年くらいの時間が必要です。広報で全文を紹介してください。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
100	その他	一般的に都市は主要ターミナルと市の本庁舎を中心に発達してきましたが、松戸市は、鉄道の交差する駅が松戸、新松戸、八柱、東松戸と分散し相対的に松戸駅の機能が低くなってきています。新松戸に快速が停車すれば、更に松戸の比重は低くなります。さらに、新型コロナによるテレワークの普及は、通勤客を大幅に減らし、東京・松戸から居住地中心に変わりつつあります。この傾向は、デジタル化、AI化で加速するでしょう。消費も居住地中心になるでしょう。東京や松戸周辺に出なくとも十分いい暮らしができる時代になるでしょう。市民から見れば、近くの支所の充実が最大の関心になるでしょう。よって本庁はIT化等でコンパクトにして、災害対策も分散的に考え配置する方が実効性あるでしょう。財政上後世に負担にならないように最大限の努力をするべきです。	第4章第1節～第4節において、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。その中で、市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに係る機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討し、旨を記載しています。	有
101	その他	市川の国府台公園は戦国時代の山城を残し、都心部にある公園としていつでも賑わいがあり、江戸川に落ちる夕日のメッカだ。それに対して相模台は同じ下総台地に流れにくみしているのに山城である事を忘れてしまうほど乱開発されている状態。それを促したのが競馬場、そして陸軍工兵学校を相模台の地に作ったことが今に至る。特に自然豊かであった斜面林を商業施設、マンションを建てさせてしまったことは市の規制の甘さ、土建さんの行政の松戸の姿そのもの。そして今なお中央公園、相模台公園を縮小してまでして相模台の地をコンクリートジャングルにすることは反対。市役所移転ありきで、ワークショップ、また今の市の構想に意見を求めるのは市民に情報開示する行政の方針に背く行為だ。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	無
102	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	この度の基本構想は唐突で納得いきません。市役所の耐震化問題はかなり前から心配されていたことで、移転か、現地建て替えかも結論が出ていませんでした。このたびの新拠点ゾーンの提案からいきなり移転建て替えになっていますが、議会でそんな話があったでしょうか？新拠点ゾーンは長い年月をかけて市民や議会と相談しながら進めていくべき大開発で、市役所はすぐにでも耐震補強すべき時です。移転と別に、現地南側に仮庁舎をつくり、職員の方々の安全を図って下さい。移転はそれからです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
103	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	全体を通して説明不足であると考えています。P27の今後の事業効果55億円とありますが、根拠となる数値が分かりません。市役所は今後松戸市の中心となるべきものですが、どのようなものが市民と話し合う場があってもいいと思います。市民に対して説明会を開くなどしてはいかがでしょうか？	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	無
104	第3章第3節 今後の進め方	市庁舎移転建設、市民の合意をとってない！	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申をもとに市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
105	その他	この構想について、市民があまり認知していないように思えます。松戸市の広報誌やHPで発信はしているものの、それ以外の情報発信が見られません。認知度や理解をより深められるような情報発信が必要に思えます、Ex)ポスターを作成し、1世帯に1部ずつ配布する。	今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知していきます。	無
106	第1章第3節 市役所の現状と課題	第1章第3節 2.市役所施設の現状 建物の老朽化から庁舎の機能を新拠点ゾーンに検討しているとありますが、移転後の庁舎の建物を撤去・解体せず、使える空間はそのまま残し、また改修をして新たな文化施設などを考えることができると思っています。今、建物はスクラップアンドビルドよりも改修や保存・活用に焦点が当てられています。確かに改修費や維持費などに費用が多くかかってしまうのは仕方のないことではありますが、少しの改修や改修せずとも利用できる部分はあるはずです。そのような点からも、すべて解体や撤去よりも、建物を改修して、新拠点ゾーンと連携したその地域や自治体を軸とする文化施設を検討してみてもいいと思います。	第2章第3節において、市役所施設及び機能の課題を記載しています。また、第4章第4節において、既存施設のあり方に関する市の考え方についても記載しました。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
107	第3章第1節 目指す方向性	第3章第1節 今後の市役所の機能において、老朽化した松戸市民会館や松戸市立図書館などの公共施設を集約した新たな庁舎があればよいと感じました。また役所のそれぞれの課が具体的にどのような業務を行っているかを明記したり、市民に分かりやすく伝える必要があると思います。Ex)すぐやる課は具体的にどんなことをやり、どの範囲までの業務を行っているかなど	新拠点ゾーン整備基本計画において、松戸駅周辺におけるまちづくりの方向性をお示しています。 市役所業務について、市民の皆様へわかりやすく情報提供することに努めます。	無
108	その他	議会ですっきり議論を尽くして下さい。松戸市で今一番何をしなければならないかを議員の方、考えて下さい。国の基は人を育てること。教育ではないでしょうか。他にもいろいろありますが。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
109	その他	計画に反対します。多額の税金と借金で実施することで、誰が借金を返すのか。将来の世代に重いつけを残すことになる。本当に必要とする人々の為に有効に使ってほしい。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	無
110	その他	市財政上の問題 今後考えられる莫大な支出を考える上での説明がありません。「ハコモノ行政」で肝心の市の行政機能が損なわれたかの「夕張市の二の舞」はご免です。その見通しを示して下さい。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。また、財源の関係では、新庁舎建設に想定される費用をすべて織り込んだうえで、その財源についても、事業費の調達、財政運営に与える影響について記載しています。	有
111	第1章第1節 市役所機能再編 整備基本構想の 位置付け	「新拠点ゾーンへの移転ありき」の案では困ります。新拠点ゾーンを文化施設や公園緑地などに有効利用することは賛成ですが、市庁舎をそこへ統合する理由が分かりません。狭い敷地では様々な問題がおきませんか？	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。	有
112	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	洪水対策は移転しなければ解決できないのですか？現地建替えでもとれる対策はあるのでしょうか？ご検討下さい。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、災害対応拠点の視点を含む6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
113	第3章第3節 今後の進め方	駐車スペースの確保ができるのか心配です。広い市内各地から訪れる市民のための駐車スペースは極めて重要です。住民サービスの観点から検討して下さい。現在のレベルは確保して下さい。	第6章第2節に、今后来庁者用や公用車の駐車スペースの必要台数等も考慮した配置検討を行う旨を記載しました。	有
114	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	現地建替えの検討もされたのであれば、その検討内容を示して下さい、新拠点地域に仮庁舎を建て「現地に短期間で建設」等も選択肢の一つではありませんか？	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
115	第3章第3節 今後の進め方	建設計画（期間・内容）が不明です。 拙速に陥ることのないよう、事前の説明・十分な検討が必要です。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
116	その他	言うまでもなくこの案件は「松戸市百年の計」といえるものです。従って事前の十分な検討が求められます。他の市でも実施されている事前の住民説明会、有志での検討会、わけても市内の建築関係者等からの聞き取り等々で多くの市民が納得できる案をつくり上げてほしいと思います。従って今回の案は一時取り下げ、再検討を要望するものです。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知します。	有
117	第3章第3節 今後の進め方	現地での建替えと、移転での建設では出来上がり年数、費用、立地条件等どれを取り上げても移転の方が良いと思います。 今後、いろいろ変更せざるを得ない事項が出てくるかもしれませんが、（案）を拝読した限りでは、新拠点での建替えでは2026年に完成予定、現地建替えでは2032年完成予定との事。それに現地で建替えながらでは、駐車場は別場所になるし工事現場近くを通過して市役所に入るなど危険度甚だしい。 現地にある建物を壊して建てていくとなると、また継ぎはぎの建造物になり、強度的にもどうか。 現市役所は老朽化、耐震性を考えても建替えは必須の事案なので少しでも早く完成できる方が良いと思います。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。これらの比較評価結果等を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所の方向性としては、新拠点ゾーン移転建て替えが得策であると考えました。なお比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
118	第3章第2節 市役所機能の地 理的立地の考え 方	大きな箱物を造れば莫大な費用がかかり、大きな借金も出来るだろうか？比較表を見ると、現地建替えもそれなりの費用がかかり大差はないように思える。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。 なお、P35下段においてその財源の根拠と財政運営に与える影響について記載しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
119	第3章第3節 今後の進め方	市民としてのいちばんの関心事は、もし大きな災害があり、江戸川が氾濫した場合、市役所の周辺の家々は浸水するかもしれない。そんなときの避難場所が市役所になっても外郭との接触が難しいのではないのでしょうか。その点、新拠点に建てて、市の老朽化した図書館や市民会館等の文化施設も併せて整備するなら災害時の避難場所になり国道6号から直接入って来てもらえるので物資輸送時の心配もない。更に併せて中央公園も整備し直すとの事だと、新たな憩いの場になり、松戸駅周辺が万全となるように思います。今でさえ子育てしやすい街のNo.1に選ばれているくらいだから市役所や文化施設が更に充実し、災害時も十分な手助けをして頂ける市となれば、若い人や子育て世代の人が移り住んでくれるのではないのでしょうか。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
120	その他	いま、進めてようとしている案については、反対です。もっと議論が必要で、移転がいいのか、現地建て替えがいいのかというような議論もほとんど明らかにされず、十分な検討する時間も資料も不十分です。もう一度仕切り直して議論すべきだと思います。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
121	第3章第3節 今後の進め方	移転がいいのか現地建て替えがいいのかなどの基本的なことの議論が全く不十分な中で、話が進んでいることに不信感を感じます。耐震が心配なので急ぐのはわかるが、もっとわかりやすく市民全体に提起し、広く議論を試みながら進めてほしい。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
122	その他	市役所機能再編整備基本構想案（以下「市役所機能整備構想」）と新拠点ゾーン整備基本計画案（以下「新拠点ゾーン構想」）との関係が理解できません。 「新拠点ゾーン構想」では市役所の機能の一部を移転するとされていたと思いますが、「市役所機能整備構想」では全面的な移転です。特に「新拠点ゾーン」が正式に承認されないうちに、「市役所機能整備構想」が打ち出されたことは理解に苦しみます。 「市役所機能整備構想」は第2章及び第3章に触れているように、支所体制の検討も含むべきと思います。 その点は全く触れずに「上記の比較検討した結果を総合的に勘案し、市役所機能の立地場所としては、新拠点ゾーンが最適であると考えています」（P24）と結論づけるのはどうしたのでしょうか。ここで「市役所機能の立地場所」との表記は、「市役所の機能すべて」と読み取るのが妥当です。 今回提案の「市役所機能整備構想」そのものが成り立たないと判断します。 市役所建て替えを急ぐことは必要だと思いますが、「市役所機能整備構想」の再考を求めます。	第4章第1節～第4節において、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。その中で、市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに係る機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討し、旨を記載しています。	有
123	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	市民にとって大切な事なので市役所は移転だけでなく現地で建て替えなど、いくつか案を出して、良い所、悪い所を市民に示して欲しいです。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
124	第3章第3節 今後の進め方	急に決まった事を示された気がします。急がずに市民に説明する場を設けて下さい。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	無
125	その他	移転建て替えの財政的な裏付けは何でしょうか。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。 なお、P35下段においてその財源の根拠と財政運営に与える影響について記載しています。	有
126	第3章第3節 今後の進め方	市民にとって大きな問題です。広報で詳しく知らせてください。	今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	無
127	その他	新市役所移転予定地の南側ゾーンは駅から最も遠い立地となり、高低差も大きく電車を利用する人にとっては非常に不便になります。現市役所の場所は市民になじみ深く、駅からの道もわかりやすいため、現地建て替えを含め再検討をお願いします。 また、移転について唐突に出てきた感が非常に強いため、拙速に進めるのは反対です。一度差し戻し、市民への周知徹底と説明会等で市民の意見を直接聞く場を設けたり、委員会を設置し、議会内で十分議論する場をしっかりと設けて下さい。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
128	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	現地建て替えでの費用も含め比較検討しやすいようにして下さい。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考える3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
129	第3章第3節 今後の進め方	『新拠点ゾーン整備基本計画』で示された市庁舎移転計画が書かれていない。 昨年秋に、パブコメが実施された『新拠点ゾーン整備基本計画案』と今回の『市役所機能再編整備基本構想』との関係からいえば、市庁舎移転にあたっての市役所機能再編でなければならないが、その点が示されていません。 『新拠点ゾーン整備基本計画案』では、市庁舎の移転が示されていますが、計画というにはあまりに大まかに表現されていて、配置や規模も分かりません。 『新拠点ゾーン整備基本計画案』を審議している『松戸駅周辺まちづくり委員会』を傍聴しましたが、委員長からは、「『新拠点ゾーン整備基本計画案』で市庁舎が移転するというのは誤解です。市役所の防災・危機管理の部門の施設を作るといって全市庁舎を移転するという計画ではありません。この先2050年の松戸のまちづくりを見据えれば、今の市役所が担っている仕事をそのまま残すことはありません」という主旨の話がありました。しかし、事業予算では、市役所跡地売却益が計上されていますし、スケジュールには市役所施設完成が示されているし、どうみても、市庁舎の全てが移転するという計画で「移転は誤解」とは思えません。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
130	第3章第3節 今後の進め方	市庁舎の防災・危機管理機能だけを移転するという話がどこにも無い。 新年早々に、この『市役所機能再編整備基本構想案』のパブコメが始まりましたが、担当課が違うとはいえ、市長名で出されるパブコメですから、二つの関係をはっきりさせて、『市役所機能再編基本構想』では、『新拠点ゾーン整備基本計画』で示せなかった市庁舎の防災・危機管理機能を新拠点ゾーンに移すという計画がどこにも示されていないのが納得できません。特に否定もされていませんが、一部を移転するのではなく、市役所を機能ごと全て移転することになっている気がします。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
131	第3章第3節 今後の進め方	新拠点ゾーン整備計画のパブコメで出された疑問に答えていません。 「松戸駅周辺まちづくり計画」で市役所移転を決めているので、「市役所機能再編構想」で、移転先に建てられる「市庁舎」に、どのような市役所機能を持つていくのか、そのほかの機能はどこへ持つていくのかを示す必要があるはずですが、答えを示すはずのこの市役所機能再編構想にも具体策がありません。『松戸駅周辺まちづくり委員会』の委員長が語ったように、2050年の松戸のまちづくりを見据えた市役所のあり方（望まれる機能）に合わせて「市庁舎」をどう建てるか示してほしいと思います。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。	有
132	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	移転して建て替える方が 良いという根拠が知りたい。 この構想案には、結局「現地建替えより、移転しての建替えの方が良い」と書いてあるのですが、お金の面や工期の面で比べてあり、市民サービスの面では「機能が集中している方が市民にとって便利です」程度しか分かりません。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。	有
133	第3章第3節 今後の進め方	市役所の一極集中はリスクが大きい 『松戸駅周辺まちづくり委員会』の委員長の話の中にありましたが、これからの松戸の行政の仕事として、『市役所』という一つの建物でやらなければならないことは、そんなに多くないと思います。 今回のコロナ禍でリモートワークが推奨されていますが、市役所の仕事においても、リモートでの情報の共有や打ち合わせ・会議等もできる時代がきています。全ての機能が一ヶ所に集まっている必要はないのです。確かに、一ヶ所に集まっていれば、職員にとっては何かと便利かも知れませんが、そのために多額の借金をして、公共の大規模な建物を造るのは時代遅れです。それに、市役所が一ヶ所集中では、そこが壊れて使用不能になったときに行政が機能不全に陥ります。分散することでリスクを減らすことができます。 すでに、市民が身近で利用することができる支所が8ヶ所あります。それらはネットワークしているので、どこでも各種手続きが可能になっています。松戸駅周辺にも支所を作ればよいわけで、市役所には、それらの支所を統括する仕事を残すだけにすれば大きな建物はいりません。 他の機能も、可能な限り分散して市役所が市内各所で機能すればよいのです。そして、議会や教育委員会、農業委員会等は別のところに設置してもいいのです。そういう中では、新拠点ゾーンへは防災・危機管理部門だけを造ればよいわけで、委員長の言う話が納得できるのです。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。	有
134	第3章第3節 今後の進め方	市役所と市庁舎とは違います。 「市役所」と「市庁舎」は別と考える必要があると思います。今の「市庁舎」は耐震性がなく、大地震がくると壊れる可能性があるというのは事実だと思います。大地震がくる前に早急に建替えが必要です。建て替えにあたって、「市庁舎」を大規模化して「市役所」の機能（仕事）を一ヶ所にまとめるか、機能（仕事）を分散させて、小規模の市庁舎をいくつ建てるかを検討することです。ここには検討するため、判断するための資料が示されていないと思います。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。	有
135	第3章第3節 今後の進め方	機能の分散を検討すべきだと思います。 今回の『市役所機能再編整備基本構想』は、どちらかと言えば、「一極集中型」です。新拠点ゾーンに新たな市庁舎を建てようという構想に思えます。 市内のどこに住んでいても歩いて市役所（支所）に行けて、そこで用事が済むというのが、市民サービスと防災・危機管理のために必要だと思います。 一ヶ所に集まりたいと思う市の職員だけで検討するのでは、分散型の市役所はきらわれます。分散型の先行自治体の事例もあると思いますし、松戸市の実態も良く調べてください。そして、市民の意見を取り入れください。「松戸のまちづくり」については市民の意見を聞く機会を持ったようですが、市庁舎移転については話題に上がっていないようです。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
136	その他	会議録や資料などを市民に公開してください。 市庁舎建替えをどのように議論してきたかの記録を一般市民に公開していません。少なくとも、これまで検討してきた職員による会議の記録とそのために用意された資料等、市庁舎建て替えに関する全ての情報を直ちに公開してください。	松戸市公式ホームページにて、これまでの検討経過について公表しています。 随時、情報については更新し、市民の皆様へ広く周知します。	無

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
137	第3章第2節 市役所機能の地理的立地の考え方	江戸川の大規模氾濫を前提にした構想になっていますが、松戸駅までも浸水する同氾濫が起これば、浸水域では甚大な被害が発生します。こうした被害を前提にした災害対策という考え方はおかしいと思います。同氾濫による浸水域以外のどのような被害を想定しているのですか。 国からの補助金を前提にした計画にもなっており、国税を使うというのなら、国と協力して、まずは同氾濫を防止するために、堤防の抜本的強化に取り組むことが先でしょう。 構想案の中でも「防災拠点、商業・文化施設などの居場所を分散して配置する」との市民の意見が掲載されていますが、災害時の司令塔は固定された庁舎建物からしか行えないわけではありません。移動式の司令塔が最も柔軟に災害に対応できると考えます。千葉県の大停電時に自治体庁舎が司令塔機能を満足に果たせなかった教訓を重くみるべきです。 また物資の集積所を庁舎の敷地に近接させる必要はまったくありません。業務のネットワーク化を指向しているのなら、災害対応機能の分散化をも追求すべきです。 相模台地域と松戸駅との近接性の利点を指摘されていますが、松戸中央公園への「上り坂」を災害時の避難路に使うことを想定されているのなら、論外といわざるを得ません。同氾濫時や大雪の時には使い物になりません。 防災無線も満足に聞こえない状況を長年にわたり放置してきたことに象徴されるように、防災への熱意そのものが疑われます。 相模台地域の緑を破壊する開発を優先しないでください。	第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、総合的な評価を行いました。比較の詳細は、第7章第8節に記載しています。 いただいた防災に関するご意見については、関係部署と共有し参考とさせていただきます。	有
138	第1章第3節 市役所の現状と課題	以下について 一般的なデザイナーの考え方では他の新しい市役所を見ても立派なだけで使い難い物が出来上がってしまうケースが多く本当に日常的に使う人（市役所勤務者）、来庁者 そして緊急的に使用する人が困ることの無い設備を作って頂きたいと思っております。 この提案を実現して頂く事で本人同行でないと手続きが出来ない様な時にも負担なく来庁する事が出来ることや障害を持つ方でも市役所内で快適に勤務が出来ること 方が一の災害時にも避難所としての高い水準の場所を供給する事が可能となります。 ①誰にでも使いやすいトイレ ・ベビー用のおむつ交換シートではなく ユニバーサルベッドの設置を。 ・介助者と一緒に入っても中で動きやすい ・オストメイト用設備は勿論、その付近にバッグや持ち物が置ける荷物台やフックの設置 ・オストメイト用設備付近に座って洗える簡易椅子等の設置 ・オストメイトバック洗浄用設備にお湯が出る ②様々な食事方法の方に対応出来る食事場所の確保。 市役所来庁の際、長時間に及び事や昼食時間を挟まざるを得ない事も有る。 乳幼児の為に調乳や離乳食の保温、胃ろうやミキサー食の方が気兼ね無く食事が出来る設備付きスペースを望む。 ・複数個室の必要性 ・食事スペースに一般使用可能な電源（コンセント）、電子レンジ設置と食器器具や手洗い用にミニキッチンを設置 ③高齢者や聴覚障害者の為にUDトークの導入。 高齢者は話し言葉でも音域により聞き取り難い場合があり、聞き取れなかった言葉も理解した様に感じてしまう事が有る為話し言葉が文字として読み取れた、聴覚障害者にも有効なUDトークの導入を望む。 ・UDトークの導入により スムーズな市役所での手続きや障害を持つ勤務者の円滑な仕事に活用が出来ると共に館内のデジタルサイネージと連動させ館内放送等も来庁者に的確に伝わる。 以上 3点の提案意見の提出を致します。 勤務者、来庁者、介助者が快適で 避難所としての機能も兼ね備えた 他市町村の手本となる様なユニバーサルデザインの松戸市役所を造って頂く事を望みます。	いただいたご意見につきましては参考とさせていただきます。今後、基本計画や基本設計の中で検討していきます。	無
139	第3章第1節 目指す方向性	P15には「市民にとって必要な情報を適時適切に発信できる機能を備えた、市民に開かれた市役所が必要である」とあります。現庁舎の情報公開室は、狭く、サービスの質も悪く、とても使い勝手のよいものではありません。新庁舎では情報公開の拡充をお願いします。できれば「室」というような狭く小さなものではなく、「情報公開センター」のような大きく開かれたものを希望します。	いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考とさせていただきます。	無
140	第4章第4節 市民利用スペースなどを検討する部会の概要	P39には「『情報』：Society5.0が目指す社会の庁舎のあり方を考える」という内容で部会を開いたとあります。庁舎というハコモノだけではなく、IoTを生かした岡山市の「e-情報公開室」のようなサービスの拡充も望みます。	いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考とさせていただきます。	無
141	第3章第3節 今後の進め方	コロナ禍による影響 ・市民税減収 ・デジタル化加速による必要人員の見直し、必要延床面積の再考が必要であると思います。 私は、現地建て替えも併せて検証が不可欠と考えます。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しましたが、この中で行政のデジタル化や職員の働き方の変化を踏まえ、市役所の各機能に関し、一定の方向性を定め、新庁舎の計画上の基準面積を再算定しました。 市役所機能の立地場所に関しましては、第5章において、候補地等別比較（定性的・定量的視点）として、現時点で考えうる3つの案をもとに比較検討を行い、6つの視点から総合的な評価を行いました。	有
142	その他	市民に広く理解を求める説明が必要であると思います。特別委員会の設置を求めます。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってまいりました。 さらに、令和3年1月に預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
143	第3章第3節 今後の進め方	この構想案では具体的なイメージを思い描く事ができません。一括移転なのか、現地建替えなのか、一部移転、分散化なのかわかりません。建替えて、かえって狭くなる問題はどのようにするのでしょうか？一番問題なのは、議会と市民に対する説明が不十分な事です。各支所に市役所の職員が説明に来て、質問に答えるとかして、もっと積極的に市民の意見を吸い上げてください。コロナ対策に税金を使い、限られた予算の中でやっていくのですから、勝手に大企業と契約してしまう様な事は、絶対にしないでください。よろしくお願いします。	第4章において、松戸市庁舎整備検討委員会からの答申を踏まえ、これからの社会における市役所機能のあり方に関する市の方針を記載しました。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知し、丁寧な説明と意見の聴取等を行います。	有
144	その他	老朽化等のさまざまな課題によって市役所の建替えには理解できるどころが大きいです。 私のまわりでは、市役所で今回の構想（案）が出ていることを知らない人がほとんどです。まず、構想（案）が出ている事を全市民に知らせる方法を駆使して知らせて欲しいです。パソコンやスマホを使いこなせる人ばかりではありませんので、よろしくお願いします。全てはそこから始まると思います。ホームページを見ると既に目標スケジュールが示されていますが、市民の意見を聞かないで決定したことだからと進めて、事後報告ということだけは無いようにお願いします。	松戸市公式ホームページにて、検討経過については随時公表しています。 今後も広報まつど、パートナー講座、地区意見交換会などの接点を活用し広く周知します。	無

No.	項目	意見の趣旨	市の考え方	修正の有無
145	その他	町会では、3年前（2018年）、市からの要請を受け、震災害による塀の倒壊防止実験と改修などに取り組みました。一昨年は、グリーンセンター統廃合問題で説明会など開催してきました。昨年は、コロナ禍のため、五香をはじめとする名高い桜まつりも停止せざるをえませんでした。こうした松戸市民の目からこの構想案に向き合うとき、市民の事をまるで考慮しない文書に、とても首肯できません。まず、松戸に生活してきた市民の目からの立案と提案を願います。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
146	第1章第1節 市役所機能再編整備基本構想の位置付け	構想案は、「参考資料」として付された「新拠点ゾーン整備基本計画（最終案）」にもとづくもの、と受け取れます。相模台の開発・拠点づくりを前提にした、それが目的で、そこに市役所移転も無理矢理くっつけた、の感があります。そもそも、上記計画はまだ決まっていないのに、上位の基本計画として書き込まれ（P.20）、かつ、今回、カラーの参考資料として示されていることに、あまりにもひどい、と落胆しました。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
147	第1章第2節 これまでの検討経過	市民生活を考慮しない相模台開発構想ゆえ、交通動線、駅への言及で、一目で暴露されます。JR松戸駅のみとり上げて云々しています。市民生活上、多用されている駅は、新松戸駅、新八柱駅などがあります。鉄道では、新京成線、武蔵野線、東武線があります。八柱への新駅設置の要求も切実です。JR松戸駅のみ周辺整備をするのでしょうか。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	無
148	第4章第1節 市役所の耐震改修などの検討の経過と結果	構想内容も市民から離れています。市役所移設の4つの視点（P7）のうち、「老朽化」はなんとなく理解できそうですが、とても喫緊とは思えません。建築後、60年、50年、37年は、全面解体がそんなに喫緊なのでしょうか。他の公共施設、とくに学校、幼稚園、保育園などを1つもとりこぼさないよう、先行すべきです。また、支所は市民の身近な存在として、とても大切です。（P12～13）。現在の役割・地理的立地の評価と充実策も語らないで、市役所移設後の希望を語るの、狡いと、思います。もしかすると、支所をもっともっと増やすことが、高齢者多社会には必要かもしれません。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	有
149	第3章第3節 今後の進め方	構想（案）は、街づくりの主体は誰だと思っているのでしょうか。「松戸駅周辺は、都市機能の更新時期を迎えており、…新たな街の魅力を創生していくことにより、多くの人を呼び込み、さらに、活気や賑わいを高めていくことが求められています。」と述べます。（P21）。松戸駅を降り、市役所まで歩いていくのが、私は好きです。小さな店舗の様々な飾り物、張り紙、人の行帰り等、ゆっくり歩きます。ぜいたくな歩行者優先道です。車の必要な人たちは、別の自動車道を使います。こうして育まれてきた人々の努力と街づくりを、別天地で創生する、という。市民は、街を与えられるもので、街をつくる主体ではない—そういう発想には賛成できません。	令和4年5月に設置した市長の諮問機関である「松戸市庁舎整備検討委員会」において、これまで「将来の市役所のあり方・機能」について、数多くの議論を行い、答申を基に市の方針を取りまとめました。 また、市議会との間では、令和3年6月に設置された「公共施設再編検討特別委員会（現・庁舎整備に関する特別委員会）」において、現在の市役所の課題や、建て替えに関する比較検討など、様々な資料を提示しながら、議論を行ってきました。 さらに、令和3年1月にお預かりした、パブリックコメントでのご意見を、できる限り反映しました。	無
150	第3章第3節 今後の進め方	構想（案）が踏まえるとする「これからの社会」認識は、無理すぎです。「人々の価値観やライフスタイルの変化は、たとえ、新型コロナウイルス感染症が収束しても元には戻らず、これから整備する市役所については、今後の社会の変化に求められる基本的な考え方をお示しし、今後の方向性についてとりまとめました。」（P1）このように、「はじめに」から、「人々の元の暮らし」を根拠とする計画はできない、と白状されています。にもかかわらず構想を進めるのは、市民はもとより、市職員の自治体職員としての働く意欲も奪い、「働き方改革」と正反対な道となります。無理矢理、「密にならないスペース」とか、「テレワーク対応」とか（P17）を急に付け加えたり、地球環境問題を職場環境に矮小化してSDGsの一環としてみたり（P18）。職員に涙ぐましい無理仕事を強いてしまっています。	第4章第1節～第4節において、行政のデジタル化や職員の働き方の変化を踏まえ、ご意見にある、市役所の各機能に関し、一定の方向性を定め、新庁舎の計画上の基準面積を、約37,000㎡としたものです。 市民サービスの観点では、手続きや相談のオンライン化、本庁・支所の役割分担を整理し、市民の利便性を図るとともに、支所等も含めて全体として備えるべき市民サービスに関する機能については、市民にとって身近な支所で、より充実したサービスを提供することを検討していきます。	有
151	その他	今は、現在の構想は不要不急扱いとし、コロナ対策に精一杯の尽力を望みます。その誠実なプロセスと結果をとおして、新しい構想の内容と体制も生まれてくるものと思います。ついながら、「新拠点ゾーン整備基本計画」も、グリーンセンター工事工程も、一旦撤回し、再検討を願います。	耐震性に問題のある市役所機能の再編整備は急務であると考えています。 来庁される市民の皆様や、そこで働く職員等の生命を守るだけでなく、市民の生命と財産を守るための拠点（災害対応拠点）としての機能を十分に果たすために、市役所機能の再編整備は市として最重要かつ緊急の課題となっています。	無